

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成29年5月24日
【事業年度】	第53期（自平成28年3月1日至平成29年2月28日）
【会社名】	株式会社リンガーハット
【英訳名】	RINGER HUT CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 秋本 英樹
【本店の所在の場所】	長崎県長崎市鍛冶屋町6番50号 （同所は登記上の本店所在地で実際の業務は下記で行っております。） 東京都品川区大崎一丁目6番1号T O C 大崎ビル14階
【電話番号】	（03）5745-8611
【事務連絡者氏名】	取締役 管理部担当 小田 昌広
【最寄りの連絡場所】	東京都品川区大崎一丁目6番1号T O C 大崎ビル14階
【電話番号】	（03）5745-8611
【事務連絡者氏名】	取締役 管理部担当 小田 昌広
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 証券会員制法人福岡証券取引所 （福岡県福岡市中央区天神二丁目14番2号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第49期	第50期	第51期	第52期	第53期
決算年月	平成25年2月	平成26年2月	平成27年2月	平成28年2月	平成29年2月
売上高 (千円)	35,073,061	36,726,698	38,155,752	41,129,427	43,844,733
経常利益 (千円)	1,233,163	1,671,484	2,211,917	2,681,345	3,158,487
親会社株主に帰属する当期純利益 (千円)	632,032	707,657	960,649	1,271,838	1,620,331
包括利益 (千円)	724,254	697,032	1,328,204	1,130,619	1,511,057
純資産額 (千円)	10,310,816	10,871,717	11,866,157	11,169,845	19,005,402
総資産額 (千円)	24,513,027	24,410,113	25,941,816	25,828,485	33,192,770
1株当たり純資産額 (円)	467.44	492.65	540.17	522.79	764.63
1株当たり当期純利益金額 (円)	28.65	32.35	43.64	58.53	73.26
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	42.0	44.5	45.7	43.2	57.3
自己資本利益率 (%)	6.1	6.5	8.1	11.4	8.5
株価収益率 (倍)	40.13	44.27	47.98	39.15	30.87
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	1,894,297	2,801,675	2,971,447	3,185,598	3,544,625
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	1,509,607	1,403,646	1,739,149	1,866,526	1,614,051
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	151,631	1,252,571	878,135	1,491,648	5,276,531
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	1,309,704	1,474,540	1,857,072	1,711,400	8,906,956
従業員数 (人)	520	528	495	496	514
[外、平均臨時雇用者数]	[4,487]	[4,562]	[4,477]	[4,704]	[4,867]

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 売上高には、その他の営業収入も含めております。

3. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者(パート・アルバイト)数は、期中平均雇用人数(1ヶ月165時間換算(ただし、第52期については1ヶ月166時間換算))を[]外数で記載しております。

5. 1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数及び1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎となる普通株式の期中平均株式数については、株式付与E S O P信託口が所有している当社株式を控除対象の自己株式に含めて算定しております。

6. 「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)等を適用し、当連結会計年度より、「当期純利益」を「親会社株主に帰属する当期純利益」としております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第49期	第50期	第51期	第52期	第53期
決算年月	平成25年2月	平成26年2月	平成27年2月	平成28年2月	平成29年2月
売上高 (千円)	16,567,030	17,501,171	17,895,552	18,979,772	20,104,756
経常利益 (千円)	908,375	1,283,228	1,190,334	1,521,461	2,520,075
当期純利益 (千円)	424,112	446,653	98,668	498,068	1,592,200
資本金 (千円)	5,066,122	5,066,122	5,066,122	5,066,122	9,002,762
発行済株式総数 (株)	22,067,972	22,067,972	22,067,972	22,067,972	26,067,972
純資産額 (千円)	10,199,269	10,486,134	10,520,893	9,046,088	16,872,037
総資産額 (千円)	22,859,496	22,818,122	23,616,009	23,569,075	30,721,562
1株当たり純資産額 (円)	462.38	475.17	478.93	423.39	678.80
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間配当額) (円)	10.00 (5.00)	10.00 (5.00)	13.00 (5.00)	17.00 (9.00)	20.00 (9.00)
1株当たり当期純利益金額 (円)	19.22	20.41	4.48	22.92	71.98
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	44.6	46.0	44.5	38.4	54.9
自己資本利益率 (%)	4.2	4.3	0.9	5.5	9.4
株価収益率 (倍)	59.83	70.16	467.17	100.00	31.42
配当性向 (%)	52.0	49.0	290.2	74.2	27.8
従業員数 (人) [外、平均臨時雇用者数]	125 [534]	124 [526]	124 [508]	125 [493]	117 [442]

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 売上高には、その他の営業収入を含めております。

3. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者(パート・アルバイト)数は、期中平均雇用人数(1ヶ月165時間換算(ただし、第52期については1ヶ月166時間換算))を[]外数で記載しております。

5. 1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数及び1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎となる普通株式の期中平均株式数については、株式付与E S O P信託口が所有している当社株式を控除対象の自己株式に含めて算定しております。

2【沿革】

- 昭和45年6月 浜勝商事株式会社（法律上の存続会社）設立（資本金130万円）
なお、実質上の存続会社、株式会社「浜かつ」は昭和39年3月に設立（資本金100万円、昭和48年4月（株）浜勝に商号変更）され、昭和54年3月1日に浜勝商事株式会社に吸収合併
- 昭和49年8月 「長崎ちゃんめん」（現・「長崎ちゃんぼん」）及び「ぎょうざ」を主力商品にしたチェーン店の第1号店を長崎市に開店（リンガーハット長崎宿町店）
当該店舗は、子会社株式会社サン・ナガサキ（昭和51年9月（株）長崎ちゃんめん）に商号変更）において開店し、昭和52年3月に株式会社浜勝に営業譲渡
- 昭和52年12月 佐賀県鳥栖市に鳥栖工場を新設
- 昭和54年3月 （株）浜勝を吸収合併（合併時の資本金9,500万円）
- 昭和54年3月 浜勝商事株式会社を株式会社浜勝に商号変更
- 昭和54年9月 関東地区第1号店（通算第37号店）を埼玉県さいたま市に開店（大宮バイパス与野店）
- 昭和56年3月 「長崎皿うどん」の販売を開始
- 昭和57年8月 株式会社浜勝を株式会社リンガーハットに商号変更
- 昭和58年6月 佐賀県神埼郡吉野ヶ里町に佐賀工場を新設
- 昭和60年6月 リンガーハット・100号店（福岡大橋店）を福岡県福岡市に開店
- 昭和60年10月 福岡証券取引所に株式を上場
- 昭和61年3月 当社グループにおける店舗建設・メンテナンスを行うため、リンガーハット開発株式会社を設立
- 昭和62年2月 「とんかつ」専門店のチェーン展開のため、株式会社浜勝を設立し、株式会社長崎浜勝よりとんかつ専門店等6店を営業譲渡
- 昭和63年8月 静岡県駿東郡小山町に富士小山工場を新設
- 平成4年11月 社員ライセンスオーナー・1号店（熊本健軍店）を開店
- 平成5年3月 株主優待制度を発足
- 平成6年4月 関西地区第1号店（通算第225号店）を大阪府東大阪市に開店（東大阪西堤店）
- 平成6年8月 中京地区第1号店（通算第230号店）を愛知県岡崎市に開店（愛知岡崎店）
- 平成9年3月 株式会社浜勝の株式を日本証券業協会に店頭売買有価証券として新規登録
- 平成10年7月 東京証券取引所に株式を上場
- 平成12年2月 東京証券取引所、大阪証券取引所の市場第一部に指定
- 平成13年3月 （株）浜勝を吸収合併（合併時の資本金558,400千円）
- 平成17年3月 リンガーハット・500号店（福岡橋本店）を福岡県福岡市に開店
- 平成18年2月 とんかつ浜勝・100号店（福岡大名店）を福岡県福岡市に開店
- 平成18年9月 会社分割により持株会社制に移行し、長崎ちゃんぼん・とんかつ・和食の各事業をそれぞれリンガーハットジャパン株式会社・浜勝株式会社・卓袱浜勝株式会社（現：リンガーフーズ株式会社）へ承継
- 平成21年5月 『長崎卓袱浜勝』事業を完全子会社である卓袱浜勝株式会社（現：リンガーフーズ株式会社）より譲受
- 平成21年5月 「卓袱浜勝株式会社」を「株式会社和華蘭」に商号変更
- 平成21年10月 リンガーハット全店において、使用するすべての野菜の国産化を実施
『野菜たっぷりちゃんぼん』販売開始
- 平成22年1月 タイでの当社事業を共同で行うために現地法人及び株式会社ニチレイフーズと合併でChampion Foods Co.,Ltd.を設立
- 平成22年4月 リンガーハット・タイ1号店「バンコクK-Village店」をタイバンコク市に開店
- 平成22年6月 リンガーハット佐世保大野店で日本初の麺業態のドライブスルー開始
- 平成22年9月 太宰府工場を佐賀工場敷地内に移転し、西日本地区の生産・物流拠点を佐賀に集約
- 平成23年3月 レストラン運営会社Ringer Hut America Inc.とフランチャイズ契約を締結し、アメリカ第1号店の「リンガーハット サラトガ店」をオープン
- 平成24年3月 台湾1号店となるリンガーハット微風台北車站店を台北市に開店
- 平成24年4月 Ringer Hut Hawaii Inc.を設立
- 平成24年7月 リンガーハット海外直営1号店となるハワイワイキキ店を開店
- 平成24年7月 東京本社（大田区大森北）及び福岡本社（福岡市博多区）を東京都品川区大崎にグループ本社として統合
- 平成25年3月 Ringer Hut Hong Kong Co.,Ltd.（中国名：稜閣屋有限公司）を設立
- 平成25年4月 Ringer Hut (Thailand)Co.,Ltd.を設立
- 平成25年12月 外販事業拡大のため「株式会社和華蘭」を「リンガーフーズ株式会社」に商号変更

平成27年3月 Ringer Hut Taiwan Co.,Ltd.(台湾名:台湾凌閣屋有限公司)を設立
平成28年5月 PT Ringer hut Indonesia.を設立
平成28年8月 株式会社ミヤタの株式取得

3【事業の内容】

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、当社（株式会社リンガーハット）とリンガーハットジャパン株式会社、浜勝株式会社、リンガーフーズ株式会社、リンガーハット開発株式会社、Ringer Hut Hawaii Inc.、Ringer Hut (Thailand)Co.,Ltd.、Champion Foods Co., Ltd.の連結子会社7社、持分法適用関連会社のRinger Hut Hong Kong Co.,Ltd.、非連結子会社の株式会社ミヤタ、持分法非適用関連会社の台湾棧閣屋有限公司及びPT Ringer hut Indonesiaの合計12社により構成されており、「長崎ちゃんぽん」及び「とんかつ」を主力商品とする店舗の運営及びそれに関連する業務を行っております。

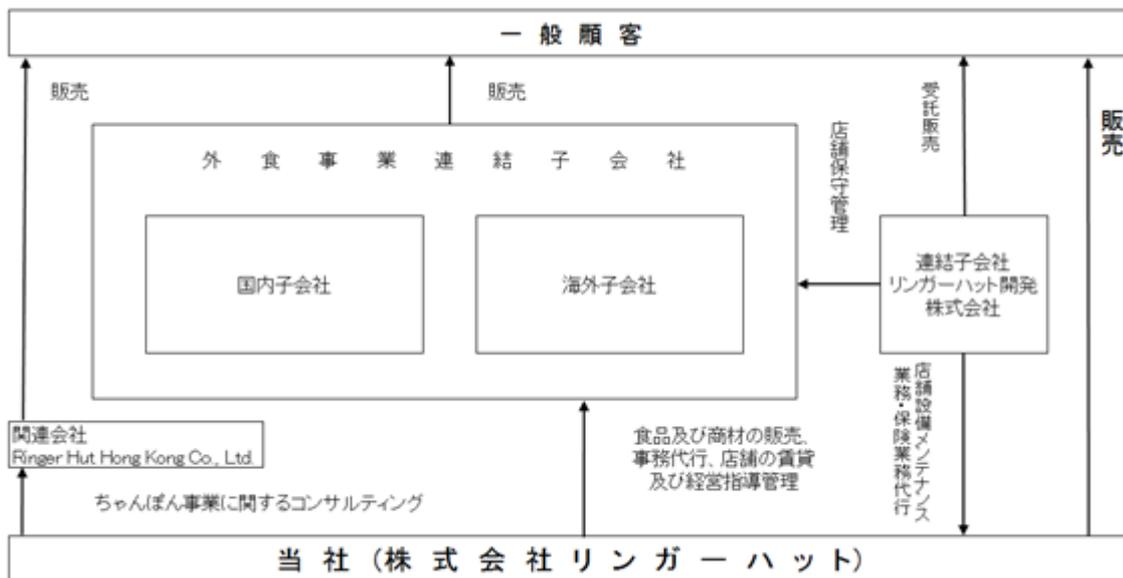
当社グループの事業内容に係わる位置付けは次のとおりであります。

なお、次の3部門は「第5 経理の状況 1.(1)連結財務諸表 注記事項」に掲げるセグメントの区分と同一であります。

- 長崎ちゃんぽん.....リンガーハットジャパン株式会社、Ringer Hut Hawaii Inc.、Ringer Hut(Thailand) Co.,Ltd.、Champion Foods Co., Ltd.、台湾棧閣屋有限公司及びPT Ringer hut Indonesia は、「長崎ちゃんぽん」の専門店としてチェーン展開をはかっております。
- とんかつ.....浜勝株式会社、Ringer Hut Hawaii Inc.及びChampion Foods Co., Ltd.は、「とんかつ」の専門店としてチェーン展開をはかっております。なお、株式会社ミヤタは店舗で使用及び販売している漬物の製造及び販売を行っております。
- 設備メンテナンス...リンガーハット開発株式会社は、主にグループ外食事業店舗の設備メンテナンスを営んでおります。

- 1 当社は主に子会社及びフランチャイジーに対して食材及び商材の販売、事務代行、店舗の賃貸及び経営指導管理を行っております。
- 2 Ringer Hut Hong Kong Co., Ltd.（本社：中国・香港）は、中国においての長崎ちゃんぽん事業を展開する会社であり、当社は当該事業に関するコンサルティングを行っております。

事業系統図は次のとおりであります。



(注) 上記系統図に含まれない関係会社3社（台湾棧閣屋有限公司、PT Ringer hut Indonesia、株式会社ミヤタ）

4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (千円)	主要な事業の内容	議決権 の所有 割合 (%)	関係内容
(連結子会社) リンガーハットジャパン(株) (注)4、5	長崎県長崎市 鍛冶屋町	100,000	長崎ちゃんぼん	100.0	食品及び商材の販売、事務代行 店舗賃貸及び経営指導管理 役員の兼任4名
浜勝(株) (注)4、5	長崎県長崎市 鍛冶屋町	100,000	とんかつ	100.0	食品及び商材の販売、事務代行 店舗賃貸及び経営指導管理 役員の兼任3名
リンガーフーズ(株)	長崎県長崎市 鍛冶屋町	30,000	長崎ちゃんぼん	100.0	当社グループ外販事業ブランド の展開 役員の兼任2名
リンガーハット開発(株)	福岡市博多区	100,000	設備メンテナンス	100.0	店舗メンテナンス工事等の委託 事務所・一部店舗の賃貸 役員の兼任3名
Ringer Hut Hawaii Inc.	米国ハワイ州	千US\$ 6,100	長崎ちゃんぼん ・とんかつ	100.0	経営指導管理 資金の貸付 役員の兼任1名
Ringer Hut (Thailand) Co.,Ltd. (注)2	タイバンコク 市	千バーツ 4,000	長崎ちゃんぼん	49.0	経営指導管理 資金の貸付 役員の兼任1名
Champion Foods Co., Ltd. (注)3	タイバンコク 市	千バーツ 50,000	長崎ちゃんぼん ・とんかつ	99.0 (50.0)	経営指導管理 資金の貸付 役員の兼任1名
(持分法適用関連会社) Ringer Hut Hong Kong Co., Ltd.	香港	千香港\$ 15,000	長崎ちゃんぼん	49.0	ちゃんぼん事業に関するコンサル ティング 役員の兼任2名

- (注)1. 主要な事業の内容の欄には、セグメントの名称を記載しております。
 2. 持分は100分の50以下であるが、実質的に支配しているため子会社としたものであります。
 3. 議決権の所有割合の()内は、間接所有割合で内数であります。
 4. リンガーハットジャパン(株)及び浜勝(株)は特定子会社であります。
 5. リンガーハットジャパン(株)及び浜勝(株)は、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に
 占める割合が100分の10を超えております。

主要な損益情報等

(単位：千円)

区分	リンガーハットジャパン(株)	浜勝(株)
売上高	27,624,318	9,525,809
経常利益	1,377,311	154,090
当期純利益	838,508	74,838
純資産額	1,522,690	286,454
総資産額	3,162,070	789,063

5【従業員の状況】

(1)連結会社の状況

平成29年2月28日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
長崎ちゃんぼん事業	289 (3,469)
とんかつ事業	106 (1,309)
設備メンテナンス事業	26 (15)
全社(共通)	93 (74)
合計	514 (4,867)

(注)1.従業員数は就業人員であり、パート・アルバイト数は、期中平均雇用人数(1ヶ月165時間換算)を()外数で記載しております。

2.全社(共通)として記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものであります。

(2)提出会社の状況

平成29年2月28日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
117(442)	43.8	17.4	7,518,374

セグメントの名称	従業員数(人)
長崎ちゃんぼん事業	22 (297)
とんかつ事業	2 (71)
全社(共通)	93 (74)
合計	117 (442)

(注)1.従業員数は就業人員であり、パート・アルバイト数は、期中平均雇用人数(1ヶ月165時間換算)を()外数で記載しております。

2.全社(共通)として記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものであります。

3.平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

(3)労働組合の状況

名称 U A ゼンセン 総合サービス部門 リンガーハットグループ労働組合
 上部加盟団体 U A ゼンセン
 結成年月日 昭和57年11月29日
 組合員数 463名(うち当社組合員数73名)
 労使関係の状況 結成以来労使関係は良好であり、特記すべき事項はありません。

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

(1)業績

当連結会計年度におけるわが国の経済環境は、政府による経済政策や雇用・所得環境の改善を背景に、総じて個人消費の持ち直しが見受けられ、緩やかな回復基調で推移しました。一方、インバウンド（訪日外国人）による消費拡大の鈍化や、中国をはじめとする新興国景気減速など、依然として不透明な状況が続いております。

外食産業におきましても、原材料価格の高騰や人材コストの上昇に加え、食の安全・安心だけでなく、より付加価値のある商品づくりが求められているなど、食の多様化による業種間の競合は一層厳しさを増しております。

このような状況の中、当社グループは野菜をはじめとする食材の国産化によって、食の「安全・安心・健康」に地道に取り組み続け、『全員参加で企業体質を改革しよう』をスローガンに、強固な企業体質づくりとともに、企業価値向上に努めてまいりました。

『5Sを磨きこみお客さまを増やす』

店舗のQSC（Q＝クオリティ・S＝サービス・C＝クリンリネス）の原点である「整理」「整頓」「清掃」「清潔」「躰」の5S活動は、5年目に入り、各店舗においても5S活動をブラッシュアップすることこそが、お客さまの満足度を向上する唯一の手段である、という認識がしっかりと定着しております。

当連結会計年度からは、併せて従業員満足度の測定も開始し、従業員満足度と顧客満足度の両立によって、来店客数の増加を目指す取り組みも行ってまいりました。

『改善のスピードを上げてA+B+Cを実現する』

「あらゆる無駄を排除することによって経営効率の向上を図る」という基本的な考え方のもと、A部門（営業・外販）、B部門（生産・購買）、C部門（物流）の各部門が改善につぐ改善を重ね、単独部門での効率化を目指すだけでなく、部門間での連携を強化しながら、業務の流れを短縮し、改善に相乗効果を生むことで、企業活動のスリム化に取り組んでまいりました。

『人材を育成し時間当り採算を向上する』

「売上最大、経費最小、時間最短」という経営原則を基本とした、小集団（チーム）の独立採算制経営管理システムでは、「時間」もコストであるという考え方のもと、「時間当りの採算」という重要指標を構成する最大の要素としての「人材」の育成に注力してまいりました。

人材育成とフィロソフィー理念の浸透共有を図る「フィロソフィーセミナー」は、当連結会計年度中にグループ全社員参加の2巡目、全日程72回のセミナーが終了いたしました。これにより、個々人のフィロソフィーを体現することで、社員個人の生活の充実とともに、当社グループのさらなる成長を目指すというモチベーションの向上にもつながっております。

また当社グループ内におけるダイバーシティ（多様な人材の活躍）推進策として、引き続き優秀なパート・アルバイト社員の店長登用制度を進めるとともに、女性が安心して職場で能力を發揮できる環境を整えてまいりました。さらに、女性活躍推進だけにとどまらず、「生活と仕事の調和」を目指すライフワークバランスという視点で、公私ともに充実した人生を支援する取り組みも始めております。

出店政策におきましては、高知県への初進出により、出店地域を45都道府県まで拡大し、計59店舗（内、海外ではインドネシアに1店舗）を新規出店いたしました。

一方で、不採算店やリロケートにより15店舗を退店した結果、当連結会計年度末では国内で743店舗、海外で12店舗、合計755店舗（内、フランチャイズ店舗214店舗）となり、前連結会計年度比で44店舗の増加となりました。

売上高につきましては、前連結会計年度中より導入を再開した「国産きくらげ」などの品質アップに伴う価格改定を、当連結会計年度中に全国規模で完了し、純既存店客数は前連結会計年度比で99.8%と、価格改定の影響を最小限で抑えることができ、純既存店売上高は前連結会計年度比101.8%となりました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は438億44百万円（前連結会計年度比6.6%増）、営業利益は32億84百万円（同15.9%増）、経常利益は31億58百万円（同17.8%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は16億20百万円（同27.4%増）と、3期連続で過去最高の売上高と利益額を更新することができました。

セグメント別の概況は次のとおりであります。

<長崎ちゃんぼん事業>

「長崎ちゃんぼんリンガーハット」では、岡山県・鳥取県以西の西日本エリアの店舗から提供を開始していた希少な「国産きくらげ」を、関西・中京、そして東日本と提供範囲を広げ、国内全ての店舗にて提供できる体制となりました。これに合わせて新商品の「きくらげたっぷり塩ちゃんぼん」の発売も開始いたしました。

メニュー施策としては、値ごろ感のある500円台メニュー第2弾として「まぜ辛めん®」や、季節商品としては、夏には紅白2種類の「冷やしちゃんぼん」、秋には黄金味噌と白銀魚介2種類の「海鮮ちゃんぼん」、冬には国産白菜をたっぷり使った「白菜たっぷりちゃんぼん」を発売するなど、四季を通じて、お客さまにより喜んでいただける訴求力のある商品提供に努めてまいりました。(®登録商標第5900144号)

また、ぎょうざ専門店の「GYOZA LABO」や、「バル(Barのスペイン語読み)」スタイルの店舗など、お客さまに楽しんでいただけるよう努めてまいりました。

さらに、調理・サービスの質の向上を図るため、調理コンテスト・サービスコンテストを開催し、お客さま満足度向上に取り組んでまいりました。

新規出店では、国内ではショッピングセンターを中心に56店舗、海外では初進出となるインドネシアに1店舗を出店し、リロケートを含む13店舗を退店した結果、当連結会計年度末の店舗数は、国内で634店舗、海外で10店舗の計644店舗(うちフランチャイズ店舗196店舗)となりました。

以上の結果、売上高は331億45百万円(前連結会計年度比8.2%増)、営業利益は26億58百万円(同38.3%増)と、増収増益となりました。

<とんかつ事業>

「とんかつ濱かつ」では、とんかつはシンプルな料理であるからこそ、厳選した「安全・安心」な食材にこだわり、そして「より多くのお客さまにお食事の楽しさを味わっていただくため、おいしいとんかつ料理を、いつでもおなかいっぱい召し上がっていただく」ことに努めてまいりました。

商品施策としては、「梅しそ巻」や「かきふらい」などの季節商品に加え、お客さまの『もう1品』のご要望にお応えした「おかわりかつ」といったサービスの充実にも取り組んでまいりました。

また、毎日手作りの自家製デザートとお飲み物をお楽しみいただけるデザートビュッフェ導入店も11店舗まで拡大、さらに高級感を演出する新しい什器への切り替えやお盆提供方式への変更など、お客さまによりおいしく感じていただく取り組みを実施いたしました。

さらに、濱かつにおいて初めてとなる調理コンテストを開催し、より高品質な商品の提供を競うことで、お客さま満足度の向上に取り組んでまいりました。

新規出店では、国内に2店舗を出店し、2店舗を退店した結果、当連結会計年度末における店舗数は国内で109店舗*、海外で2店舗、合計111店舗(うちフランチャイズ店舗18店舗)となりました。(*和食業態の長崎卓袱浜勝を含む)

以上の結果、売上高は104億59百万円(前連結会計年度比1.5%増)、営業利益は5億16百万円(同34.6%減)と、増収減益となりました。

<設備メンテナンス事業>

設備メンテナンス事業は、当社グループ内直営店舗及びフランチャイズ店舗の設備維持メンテナンスに係る工事受注や機器類の保全などが主な事業であり、売上高は17億66百万円(前連結会計年度比4.3%増)、営業利益は1億59百万円(同16.9%増)と、増収増益となりました。

(2) キャッシュ・フロー

当連結会計年度末の現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べ71億95百万円増加し、89億6百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は35億44百万円(前連結会計年度比11.3%増)となりました。これは主に、法人税等の支払額12億8百万円があったものの、税金等調整前当期純利益26億52百万円や減価償却費14億45百万円があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果支出した資金は16億14百万円(同13.5%減)となりました。これは主に、投資有価証券の売却による収入10億29百万円があったものの、設備投資による支出23億57百万円があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は52億76百万円(前連結会計年度は14億91百万円の資金支出)となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出16億7百万円や自己株式の取得による支出11億93百万円があったものの、株式の発行による収入78億29百万円があったことによるものであります。

2【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当連結会計年度の生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	金額(千円)	前年同期比(%)
長崎ちゃんぼん事業	6,954,226	106.5
とんかつ事業	1,520,123	100.9
合計	8,474,350	105.4

(注) 1. 金額は、製造原価によっております。

2. 「設備メンテナンス事業」は、生産設備を有しないため、生産実績はありません。

3. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 店舗材料及び商品仕入実績

当連結会計年度の店舗材料及び商品仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	金額(千円)	前年同期比(%)
長崎ちゃんぼん事業	1,834,113	108.9
とんかつ事業	1,295,609	115.1
設備メンテナンス事業	137,497	159.2
合計	3,267,219	112.8

(注) 1. 金額は、仕入価格によっております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 受注状況

当連結会計年度の受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(千円)	前年同期比(%)	受注残高(千円)	前年同期比(%)
設備メンテナンス事業	168,385	161.7	-	-
合計	168,385	161.7	-	-

(注) 1. 「設備メンテナンス事業」を除く事業については、店舗の販売予測に基づく生産を行っておりますので、該当事項はありません。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(4) 販売実績

当連結会計年度の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	金額(千円)	前年同期比(%)
長崎ちゃんぼん事業	33,145,749	108.2
とんかつ事業	10,459,433	101.5
設備メンテナンス事業	239,551	130.2
合計	43,844,733	106.6

(注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3【対処すべき課題】

国内外食市場におきましては、人口減少に伴う人財不足や消費環境の変化、インバウンドに対応した店舗づくりなど、さまざまな外部要因に端を発する課題解決が求められると同時に、食の安全・安心への関心がより一層高まってきております。

このような環境の下、当社グループでは引き続き『全員参加で企業体質を改革しよう』というスローガンと、3つの経営戦略方針を継続してまいります。

5Sを磨きこみお客さまを増やす

改善のスピードを上げてA+B+Cを実現する

人財を育成し時間当たり採算を向上する

さらに、従業員の一人ひとりが経営者意識を持ちながら、当社グループ全体の企業体質を「改革」していくための労働環境づくりと、従業員満足度の向上を課題として掲げています。

「働き方改革」～環境改善で働きやすい企業に～

企業の根幹を成す「人財」育成のために、より即応力のある労働環境改善「働き方改革」を推進してまいります。

<営業時間短縮>

特に深夜時間帯の営業時間短縮やオーダーストップ時間の設定を進めることで、従業員の安定雇用やモチベーション向上を図り、お客さまへのより質の高いサービス提供につなげてまいります。

<65歳定年>

正社員を対象に60歳定年を65歳に延長し、定年延長後も延長以前と同等の賃金・賞与基準とすることで、シニア社員能力を最大限に活かすと同時に、従業員満足度の向上につなげてまいります

<若年社員の離職防止>

特に若年社員の離職は、働く環境にも起因するものと真摯にとらえ、直属の上司とは別に、相談や助言を気軽に求めることができる「メンター制度」を推進し、若年社員の将来性を高め、貴重な人財の定着率向上を目指します。

<女性活躍推進>

社員の多様性を活かすダイバーシティのひとつとして、女性活躍推進に取り組んでおりますが、より具体的な推進策として女性店長の登用を推進し、正社員のみならず、女性比率が多いパート・アルバイト従業員から、パート店長への育成や登用を積極的に進めてまいります。

また、新年度においては特に既存店舗の改修や工場設備への投資、借入金の返済を進めることで、収益力と財務基盤の強化を図ってまいります。

以上により第54期連結業績の見通しは、売上高450億円、営業利益33億7千万円、経常利益32億5千万円、親会社株主に帰属する当期純利益16億8千万円をそれぞれ見込んでおります。

4【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には以下のようなものがあります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 特定事業への依存と売上高の季節変動について

当社グループは創業以来、飲食店の経営を事業としており、当社グループの主だった事業はこの外食事業であります。したがって、当社グループの業績は、外食産業に対する消費者のニーズの変化、当該業界での競争激化の影響を大きく受ける傾向にあります。

また、当社グループの売上高は1年を通して一定ということではなく、季節によって変動する傾向があります。特に5月のゴールデンウィーク、夏休み及び年末年始の売上高が高くなるため、いわゆる「稼ぎ時」に台風、酷暑、厳寒などの天候の悪影響が及んだ場合、目論見の売上高・利益を達成できなくなる恐れがあります。

(2) 食の安全と衛生管理について

近年、食品を取り巻く環境においては、野菜の残留農薬問題、BSE問題、異物混入問題、輸入食材の安全性の問題などが発生しております。当社グループでは、各原材料メーカーから「食品衛生法」「農林物資の規格化及び品質表示の適正化に関する法律（通称、「JAS法」）」「不当景品類及び不当表示防止法（通称、「景品表示法」）」などの関連諸法規に違反しないことを保証する書面を受領するなど、品質管理については万全の体制で臨んでおります。

また、当社グループにおいては、ご来店いただくすべてのお客さまに安全な商品を提供するため、保健所の指導で行っている衛生検査に加えて、当社グループ内に独自に食品衛生チェックのできる体制を強化すべく「品質保証チーム」を設置し、策定したクリンリネスマニュアル、指導書に基づき、店舗及び工場内での衛生状態が基準どおり保たれているかどうかを定期的に確認しております。

衛生面については、今後においても十分留意していく方針であります。食中毒の発生など、当社固有の衛生問題にのみならず、消費者の食品の安全性に対する関心が高まっていることにより、仕入先における無認可添加物の使用などによる食品製造工程に対する不信、同業他社の衛生管理問題などによる連鎖的風評及び口蹄疫や鳥インフルエンザなどの社会全般的な問題など、各種の衛生上の問題が発生した場合には、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(3) 原材料の仕入について

当社グループが、お客さまに提供する商品の食材等は多種多様にわたるため、疫病の発生や天候不順等により、必要量の原材料確保が困難な状況が生じたり、仕入価格が高騰したりする可能性があります。また、お客さまに提供する商品の食材を外部から調達しており、その一部は海外から輸入しております。したがって、万が一、輸入制限措置などにより、海外からの食材が輸入できないというような問題が発生した場合には、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

また、「おいしさ」「安全・安心」を達成するため、平成21年4月に国産米粉を使用したぎょうざの販売、平成21年10月より野菜の全量国産化、平成22年1月よりちゃんぽん麺の小麦国産化、平成25年10月よりぎょうざの主要材料の国産化を開始しております。食材の仕入に当っては、国内農家等との長期契約の締結等により仕入価格及び仕入量の安定化を図っておりますが、災害、天候不順、疫病の発生等により、必要量の原材料確保が困難な状況が生じる、又は仕入価格が高騰する等の事態に発展した場合、当社グループの事業運営及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

(4) 敷金・保証金及び建設協力金について

当社グループでは多店舗展開を念頭に置いていることから、出店に際しては主に、店舗の土地及び建物を賃借する方式で出店しており、出店時に土地建物所有者に対して、敷金・保証金及び建設協力金などとして資金の差入を行っております。

新規出店の際には対象物件の権利関係などの確認を十分に行ってはおりますが、土地建物所有者である法人、個人が破綻などの状態に陥り、土地などの継続的使用や債権の回収が困難となった場合には、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(5) 自然災害や停電等による影響について

当社グループは製造ラインの中断による潜在的なマイナスの影響を最小化するために、すべての設備における定期的な災害防止検査と設備点検を行っております。しかしながら、生産施設で発生する災害、停電又はその他の中断事項による影響を完全に防止又は軽減できる保証はありません。

また当社グループで使用される食材は、現在静岡及び佐賀地区の工場加工・製造され、営業店舗へ毎日配送しております。したがって、静岡及び佐賀地区で大規模な地震やその他の操業を中断する事象が発生した場合、

当社グループで使用される食材の生産能力が著しく低下し、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(6) 個人情報の取り扱いについて

当社グループでは営業目的の会員情報のほか、株主及び従業員などの個人情報を取り扱っております。

このような個人情報の保護をはじめ、企業の社会的責任に前向きに対応していくため「CSRチーム」を設置するなど環境の整備を行っておりますが、個人が特定できるすべての情報が含まれるため、今後さらなる情報の洗い出しや、漏洩しない仕組みづくり、漏洩させない風土づくりに相当のコストがかかることが予想されます。

また、万が一、情報が漏洩し、社会問題になった場合には、行政処分はもとより、顧客の信用を失い、企業イメージが失墜し、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(7) 法的規制について

当社グループが属する外食産業においては、主な法的規制としては「食品衛生法」、「浄化槽法」、「消防法」、「食品リサイクル法」、「改正パートタイム労働法」などがあり、さまざまな法的規制のなかで事業が運営されております。また、当社グループのフランチャイズ・チェーン展開においては、「中小小売商業振興法」及び「独占禁止法」などの規制を受けております。

パートタイマーの厚生年金適用拡大など、法的規制が変更・強化された場合には、新たな費用が発生することにより、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(8) 有利子負債について

当社グループは、店舗建築費用及び差入保証金等の出店資金を主に金融機関からの借入れにより調達しております。今後、有利子負債残高の圧縮等を含め保守的な財務方針で経営に当る方針であります。金利に変動が生じた場合、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(9) 出店について

当社グループにおいては、今後も必要に応じて当社グループの出店基準に基づき国内外において新規出店を行う方針であります。新規出店計画については基準に合致する用地確保が困難な場合がある他、出店後において立地環境等の多大な変化や計画された店舗収益が確保できない等の事態が生じた場合、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(10) 減損損失及び退店損失について

当社グループは、平成17年2月期より固定資産の減損に係る会計基準を適用しておりますが、当社グループの店舗において、外部環境の著しい変化等により収益性が著しく低下した場合、減損損失を計上する可能性があり、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

また、当社グループにおきましては、当社グループの退店基準に基づき不採算店舗等の退店を実施しております。退店に際し、固定資産除却損及び賃借物件の違約金・転貸費用等が発生する場合、また当該退店に係る損失が見込まれた場合に引当金の計上を行うなど、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(11) フランチャイズ・チェーン展開について

当社グループでは直営店の営業展開の他、フランチャイズ契約に基づくフランチャイズ・チェーン展開を行っております。これらの契約により、当社はフランチャイズ店舗からのロイヤリティ収入等を収受しております。当該フランチャイズ加盟企業の減少や業績の悪化が生じた場合、フランチャイズ・チェーン展開が計画通りに実現できないこと及びロイヤリティ収入が減少すること等により、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

また、当社グループでは、フランチャイズ加盟企業に対して衛生管理等の店舗運営指導を実施しております。しかし、フランチャイズ加盟企業において当社グループの指導に従ったサービスの提供が行われない場合や衛生管理面の問題が生じた場合、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

なお、当社グループではタイ、米国、台湾及びその他の海外地域においてフランチャイズ・チェーン展開を図っていく方針ではありますが、当社グループの想定どおりに推移する保証はありません。

5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6【研究開発活動】

(1) 研究開発活動の体制

当社グループにおける研究開発活動は「生産技術研究チーム」、「モデル店舗開発チーム」を設け、それぞれ専任担当者を置いて各チームごとに研究開発活動にあっております。

また、店舗のメニュー開発は「リンガーハット商品開発チーム」と、「浜勝商品開発チーム」が担当しております。

「生産技術研究チーム」においては店舗、工場の設備・機器・システムの研究開発と機器の内製化を推進することにより品質の向上とコストダウン及びノウハウの蓄積を担うべく活動しております。

「モデル店舗開発チーム」においては経営目標達成のために、お客さまのニーズにあった「競争力の高い」モデル店舗をつくりあげる企画開発を各業態、関連組織と連携して活動しております。

「商品開発チーム」においては商品戦略を業態別にロードサイド、フードコート、都心ビルインに分け年間商品開発カレンダーに落とし込み、商品コンセプト策定、消費者ニーズ等の調査、試作、役員試食、消費者試食、オペレーション検証と機器開発、自社工場製造ラインテスト、品質保証チームによる食品衛生チェックを経て、販売を決定する体制をとっております。

ちゃんぽん麺、皿うどん用フライ麺、ぎょうざ、チャーハンをはじめ多くの材料を自社工場で生産するシステムをとり「他社との絶対的な商品の差別化」を図っている当社グループでは、「商品開発チーム」は、素材調達を担当する「購買チーム」及び生産・加工を担当する「生産チーム」と連携して商品開発活動を行っております。

また、販売に際しては、店舗オペレーションマニュアルの作成と周知、店舗責任者への教育・訓練を「トレーニングチーム」と連携して行っております。

(2) 研究開発活動の方針

「すべてのお客さまに楽しい食事のひとつを心と技術でつくる」という企業ミッションを達成するために、研究開発におきましては「お客さまに喜んで頂ける研究開発活動を推進する」こと、商品開発におきましては「健康的で高品質な商品を手頃な価格で提供する」ことをその活動基本方針としております。国内にせまる少子高齢化対応、国内外の多様化する消費者ニーズ等、時代の変化、販売拠点の変化に対応、あるいは企業側からの積極的な新提案ができるよう、業界動向、消費者調査、来店客調査から得られる情報を活動方針に反映させております。

(3) 当連結会計年度における研究開発活動

長崎ちゃんぽん事業

(イ) ちゃんぽん類の開発

春より新500円シリーズで「まぜ辛めん」を発売し、3年目を迎える「冷やしちゃんぽん」をブラッシュアップして提供しました。

秋には「海鮮かきちゃんぽん」を販売し、同時に「夕食シリーズ」の鍋・ふかひれメニューを充実させ郊外型の店舗110店舗で展開いたしました。

また、ちゃんぽんスープを更に美味しく進化させ、テストを繰り返しています。

(ロ) サイドメニューの開発

おつまみ用として「ちゃんぽん串」を一部店舗で販売し好評なご意見を頂戴しております。

新たな取り組みとしては「鶏てん」に力を入れ開発及び販売を実施しております。

(ハ) モデル店舗の開発

平成28年6月より、MYちゃんぽん店舗である葛飾新宿店を出店しました。当初はレギュラーちゃんぽんをメニューから外していましたが、満足度向上のために平成29年2月にはフルメニューも加えたMYちゃんぽんの形式に変更しています。またMYちゃんぽんの仕組みをより判りやすく、ゆっくり注文できるように、同年4月に出店しました宮崎大塚店ではタブレットオーダーシステムを導入しています。

平成28年7月には、ごはん味噌汁、手作り惣菜を合わせた定食タイプの「おかず屋」を開発し、リンガーハットイオンモール直方店につぎ関東エリアでの市場性の検証として、おかず屋2号店である南砂町SUNAMO店を出店しています。

既存店舗では「焼きぎょうざ」として40年以上内製化でこだわり提供している「ぎょうざ」に関して、お客さまの要望に応えるべく、平成28年4月より大型ショッピングセンターセブンパークアリオ柏店の食品物販店エリアに「生ぎょうざ」製造直売所を専門店として出店し、同年10月には町田鶴川店を出店しました。

また、採用しているアーム型AIロボットの導入コストを抑えるべくロボットの開発に着手し、単なるぎょうざピッキングロボット機能だけではなく、工場、店舗の将来的な労働力不足を見越したロボット開発に試金石にしていく先行テストを繰り返しています

(ニ) 食の安全・安心について

食の安全・安心を確保する為、今後も店頭及びホームページにて原産地情報及びアレルギー情報等の開示を積極的に行います。

また、健康志向及びカロリー制限、塩分制限等があるお客様に安心して食べていただける「減塩ちゃんぼん」及び海藻めんを使用しカロリーを抑えた「海藻めんと豆乳のヘルシーちゃんぼん」等のヘルシーメニューの開発を行っております。

上記の結果、当連結会計年度中に長崎ちゃんぼん事業の研究開発に投資した金額は、96,476千円でありませ

とんかつ事業

(イ)とんかつ類の開発

季節定番のブラッシュアップを行い、「桜香るミルフィーユかつ」「梅しそ巻とヒレ膳」「かきふらいとヒレ膳」を販売しました。また、夏の商品としてわさびを使用し夏のわさびおろし膳を販売しました。

(ロ)モデル店舗の開発

新店1店舗(葛飾新宿店)をデザートビュッフェ販売店舗としてオープンしました。

今後の人員不足への対応としておかわりコーナーを4店舗(熊本新空港通り店、福岡大池店、西所沢店、小金井公園店)に設置しました。

また、テーブルオーダー、自動つり銭機、ウェイティングシステムを1店舗(小金井公園店)に設置し、テイクアウトの販売拡大に向けて惣菜コーナーのショーケースを1店舗(西所沢店)に設置しました。

(ハ)その他開発

テイクアウトの拡大販売に向けてお渡し後も30分温かいまま提供できるよう新型弁当箱の開発をいたしました

上記の結果、当連結会計年度中にとんかつ事業の研究開発に投資した金額は、61,856千円であります。

セグメントに区分できない基礎研究開発活動

生産技術研究チーム

(イ)GYOZA LABO ロボットの開発、デザイン及び製作

(ロ)GYOZA LABO ぎょうざ具解凍機の新規構造への取り組み

(ハ)冷凍麺解凍機の新規構造への取り組み

営業戦略リテールチーム

リンガーハット及び濱かつにて、店内物販を活性化させる活動を行っております。

物販ブランドまるりの立ち上げを行い、平成28年度は一部郊外店舗にてオリジナル物販ブランド「まるり」より、オリジナルカステラ、オリジナルかりんとう、長崎の銘菓等の販売を開始致しました。

同時に工場内製品等の物販商品化を進める事で、更なるバリエーションを増やす活動を行っております。

以上、当連結会計年度中に研究開発活動へ投資した金額の合計は、各セグメントに区分できない費用63,094千円を含め、221,427千円であります。

7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。

なお、この連結財務諸表の作成に当たりましては、退職給付に係る負債、繰延税金資産及び減損損失の計上など一部将来見積りに基づくものがありますが、これらの見積りは、当社グループにおける過去の実績や現時点での将来計画に基づき、「退職給付に係る会計基準」「税効果会計に係る会計基準」及び「固定資産の減損に係る会計基準」等に準拠して実施しております。

(2) 当連結会計年度の財政状態の分析

資産

当連結会計年度末の資産は、前連結会計年度末に比べ73億64百万円増加し、331億92百万円となりました。これは主に、現金及び預金が新株の発行等により71億95百万円増加したことや、未収入金が1億円増加したことによるものであります。

負債及び純資産

負債は前連結会計年度末に比べ4億71百万円減少し、141億87百万円となりました。これは主に、社債が2億56百万円減少したこと、短期借入金が1億90百万円減少したこと及び長期借入金が4億7百万円減少したことによるものであります。

純資産は前連結会計年度末に比べ78億35百万円増加し、190億5百万円となり、自己資本比率は前連結会計年度末に比べ14.1ポイント増加し、57.3%となりました。これは主に、新株式の発行により資本金及び資本準備金がそれぞれ39億36百万円増加したことによるものであります。

(3) 当連結会計年度の経営成績の分析

売上高、売上原価、販売費及び一般管理費及び営業利益

売上高につきましては、「1 業績等の概要 (1) 業績」及び「2 生産、受注及び販売の状況」に記載したとおりであります。

売上原価は、前連結会計年度に比べ9億64百万円増加し、138億55百万円となりました。これは主に売上高が前連結会計年度比27億15百万円の増収となったことによるものであります。

販売費及び一般管理費は、前連結会計年度に比べ13億1百万円増加し、267億5百万円となりました。これは主にパート・アルバイトの時給上昇に伴う人件費の増加と店舗数増加に伴う賃借料の増加によるものであります。

以上の結果、営業利益は前連結会計年度に比べ4億49百万円増加し、32億84百万円となりました。

営業外損益及び経常利益

金融収入（受取利息及び受取配当金）から金融費用（支払利息及び社債利息）を差引いた金融収支は、当連結会計年度は前連結会計年度に比べて7百万円費用が減少し37百万円の費用となりました。これは主に、期中の有利子負債の減少によるものであり、インタレスト・カバレッジ・レシオ（利払能力：営業キャッシュフロー／利息の支払額）は、60.3倍（前年同期47.6倍）となりました。

以上の結果、経常利益は前連結会計年度に比べ4億77百万円増加し、31億58百万円となりました。

特別損益及び当期純損益

特別利益は、前連結会計年度に比べ1億59百万円増加し、2億28百万円となりました。

これは主に投資有価証券売却益を2億1百万円計上したことによるものであります。

特別損失は、前連結会計年度に比べ3億87百万円増加し、7億34百万円となりました。

これは主に減損損失が3億43百万円増加したことによるものであります。

以上の結果、親会社株主に帰属する当期純利益は前連結会計年度に比べ3億48百万円増加し、16億20百万円となりました。

(4) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当社グループの資金の源泉は、「現金及び現金同等物」と「営業活動によるキャッシュ・フロー」であります。

一方、当社グループの主な運転資金需要は、当社グループ販売商品に係る原材料費、店舗運営に係る人件費及び店舗オーナーへの支払賃借料等であり、主な設備投資需要は、新規出店、店舗改修及び工場設備投資に係る投資資金であります。

したがって、運転資金と設備投資資金については、営業キャッシュ・フローで充当することを基本とし、必要に応じて資金調達を実施しております。

なお、営業活動及び投資活動により獲得したキャッシュ・フローを借入金の圧縮に充当しております。なお、当連結会計年度においては、新株の発行による収入78億29百万円があったため、当連結会計年度末の「現金及び現金同等物」は、前連結会計年度末に比べ71億95百万円増加し、89億6百万円となりました。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当社グループは、当連結会計年度に直営店44店舗の出店、24店舗の改造・改装並びに工場投資に伴い、32億55百万円（前年同期比13.0%増）の設備投資を実施いたしました。

長崎ちゃんぼん事業においては、新規出店42店舗及び20店舗の改造・改装に17億66百万円、既存店の設備購入に2億98百万円、工場設備の購入に3億38百万円、その他2億59百万円の設備投資を実施いたしました。

とんかつ事業においては、2店舗の新規出店及び4店舗の改造・改装に4億6百万円、既存店の設備購入に1億45百万円、工場設備の購入に1百万円、その他22百万円の設備投資を実施いたしました。

上記設備投資額には、有形固定資産、無形固定資産及びリースによる投資のほか店舗新規出店等に係る敷金、差入保証金及び建設協力金への投資額も含めております。

2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は次のとおりであります。

(1)提出会社

(平成29年2月28日現在)

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の 内容	帳簿価額						従業員数 (人)
			建物及び構 築物 (千円)	機械装置 及び 運搬具 (千円)	土地 (千円) (面積㎡)	リース 資産 (千円)	その他 (千円)	合計 (千円)	
佐賀工場 (佐賀県神埼郡吉 野ヶ里町)	長崎ちゃ んぼん・ とんかつ	生産設備	917,677	319,002	382,242 (22,747.28)	73,898	28,087	1,720,908	18 [254]
富士小山工場 (静岡県駿東郡小 山町)	長崎ちゃ んぼん・ とんかつ	生産設備	965,450	415,718	1,220,497 (53,848.29)	34,966	37,740	2,674,374	13 [153]
鳥栖分工場 (佐賀県鳥栖市)	長崎ちゃ んぼん・ とんかつ	生産設備	32,677	18,507	26,122 (2,219.00)	6,882	1,692	85,881	1 [24]
グループ本社 (東京都品川区) ほか	長崎ちゃ んぼん・ とんかつ ・全社	統括業務 施設	69,740	23,375	43,584 (12,976.00)	69,963	46,382	253,046	85 [11]
店舗用設備	長崎ちゃん ぼん	営業用設 備	5,580,623	31	2,364,708 (15,988.94)	2,878	72,187	8,020,429	- [-]
店舗用設備	とんかつ	営業用設 備	1,635,854	-	821,085 (3,449.46)	-	1,861	2,458,802	- [-]

(注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品であり、建設仮勘定を含んでおります。なお、金額には消費税等を含んでおりません。

2. 従業員数の[]は臨時雇用者数であり、期中平均雇用人数(1ヶ月165時間換算)を外数で表示しております。

3. 上記の他、主要な賃借及びリース設備として以下のものがあります。

事業所名 (所在地)	セグメントの名 称	設備の内容	土地の面積(㎡)	年間賃借料 (千円)	年間リース料 (千円)
佐賀工場 (佐賀県神埼郡吉 野ヶ里町)	長崎ちゃんぼん・ とんかつ	生産設備	-	1,888	33,549
富士小山工場 (静岡県駿東郡 小山町)	長崎ちゃんぼん・ とんかつ	生産設備	-	55	22,859
鳥栖分工場 (佐賀県鳥栖市)	長崎ちゃんぼん・ とんかつ	生産設備	-	1,272	5,582
グループ本社 (東京都品川区) ほか	長崎ちゃんぼん・ とんかつ・全社	統括業務施設	-	66,413	86,142

(2)国内子会社

(平成29年2月28日現在)

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額						従業員数 (人)
				建物及び構築物 (千円)	機械装置及び運搬具 (千円)	土地 (千円) (面積㎡)	リース資産 (千円)	その他 (千円)	合計 (千円)	
リンガーハットジャパン(株)	長崎宿町店 (長崎県長崎市) ほか447店舗	長崎ちゃんぽん	営業用設備	350	1,652	-	-	423,389	425,393	260 [3,105]
浜勝(株)	本店(長崎県長崎市)ほか92店舗	とんかつ	営業用設備	950	640	-	-	118,078	119,669	100 [1,210]
リンガーハット開発(株)	本社(福岡県福岡市博多区)等	設備メンテナンス	営業用設備	6,233	742	138,209 (3,157.69)	-	3,389	148,574	26 [15]

(注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品であります。なお、金額には消費税等を含んでおりません。

2. 従業員数の[]は臨時雇用者数であり、期中平均雇用人数(1ヶ月165時間換算)を外数で表示しております。

(3)在外子会社

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額						従業員数 (人)
				建物及び構築物 (千円)	機械装置及び運搬具 (千円)	土地 (千円) (面積㎡)	リース資産 (千円)	その他 (千円)	合計 (千円)	
Ringer Hut Hawaii Inc.	米国ハワイ州	長崎ちゃんぽん・とんかつ	営業用設備	83,568	-	-	-	26,869	110,437	7 [49]
Champion Foods Co.,Ltd.	タイバンコク市	長崎ちゃんぽん・とんかつ	営業用設備	-	-	-	-	85,315	85,315	1 [46]

(注) 従業員数の[]は臨時雇用者数であり、期中平均雇用人数(1ヶ月165時間換算)を外数で表示しております。

3【設備の新設、除却等の計画】

当社グループの設備投資については、景気予測、業界動向、投資効率等を総合的に勘案して策定しております。

設備計画は、原則的に連結会社各社が個別に策定しておりますが、計画策定に当っては、グループ会議において提出会社を中心に調整を図っております。

なお、当連結会計年度末現在における重要な設備の新設、改修等の計画は次のとおりであります。

(1) 重要な設備の新設

会社名 事業所名	所在地	セグメントの 名称	設備の内容	投資予定金額		資金調達方法	着手及び完了予定		完成後の増 加能力
				総額 (千円)	既支払額 (千円)		着手	完了	
(株)リンガーハット リンガーハットら らぼーと甲子園店 ほか39店舗	兵庫県西宮市 ほか	長崎ちゃんぼん	営業用設備	1,125,000	226,055	自己資金及び 借入金	平成29年 3月	平成30年 2月	8.9% (注)2
(株)リンガーハット 第55期第2四半期 累計期間出店20店 舗	-	長崎ちゃんぼん	営業用設備	650,000	-	自己資金及び 借入金	平成30年 3月	平成30年 8月	4.5% (注)2
小山工場ほか1工 場	静岡県駿東郡 ほか	長崎ちゃんぼ ん・とんかつ	生産設備	1,450,000	-	自己資金及び 借入金	平成29年 3月	平成31年 2月	-
Ringer Hut Hawaii Inc. 54期新規出店2店 舗	米国ハワイ州	長崎ちゃんぼん	営業用設備	100,000	-	自己資金及び 借入金	平成29年 3月	平成30年 2月	0.5% (注)2

(注)1 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

2 完成後の増加能力の算定につきましては、当連結会計年度末の直営店舗数(リンガーハット448店)に対する翌連結会計年度の新規出店予定数の割合によっております。

(2) 重要な改修

会社名 事業所名	所在地	セグメントの 名称	設備の内容	投資予定金額		資金調達方法	着手及び完了予定		完成後の増 加能力
				総額 (千円)	既支払額 (千円)		着手	完了	
(株)リンガーハット リンガーハット熊 本清水バイパス店 ほか18店舗	熊本県熊本市 ほか	長崎ちゃんぼん	営業用設備	550,000	45,307	自己資金及び 借入金	平成29年 3月	平成30年 2月	-
(株)リンガーハット 第55期第2四半期 累計期間店舗改修 15店舗	-	長崎ちゃんぼん	営業用設備	400,000	-	自己資金及び 借入金	平成30年 3月	平成30年 8月	-
(株)リンガーハット 浜勝熊本清水バイ パス店ほか11店舗	熊本県熊本市 ほか	とんかつ	営業用設備	198,034	1,612	自己資金及び 借入金	平成29年 3月	平成30年 2月	-
(株)リンガーハット 第55期第2四半期 累計期間店舗改修 3店舗	-	とんかつ	営業用設備	100,000	-	自己資金及び 借入金	平成30年 3月	平成30年 8月	-
(株)リンガーハット 富士小山工場ほか 2工場	静岡県駿東郡 ほか	長崎ちゃんぼ ん・とんかつ	生産設備	890,000	15,126	自己資金及び 借入金	平成29年 3月	平成30年 2月	-
(株)リンガーハット 富士小山工場ほか 2工場	静岡県駿東郡 ほか	長崎ちゃんぼ ん・とんかつ	生産設備	1,002,000	-	自己資金及び 借入金	平成30年 3月	平成31年 2月	-
(株)リンガーハット グループ本社	東京都品川区	全社	システム	350,000	5,921	自己資金及び 借入金	平成29年 3月	平成30年 2月	-

(注)上記金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 除却等

経常的な設備の更新のための除売却を除き、重要な設備の除売却の計画はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	46,000,000
計	46,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成29年2月28日)	提出日現在発行数 (株) (平成29年5月24日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	26,067,972	26,067,972	東京証券取引所 (市場第一部) 福岡証券取引所	単元株式数 100株
計	26,067,972	26,067,972	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数(千株)	発行済株式総数 残高(千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成28年11月21日 (注)1	3,480	25,547	3,424,876	8,490,999	3,424,876	5,504,267
平成28年12月21日 (注)2	520	26,067	511,763	9,002,762	511,763	6,016,031

(注)1. 公募による新株式発行

発行価格(1株につき) 2,053円

発行金額(1株につき) 1,968.32円

資本組入額(1株につき) 984.16円

(注)2. 有償第三者割当(オーバーアロットメントによる売出しに関連した第三者割当増資)

発行金額(1株につき) 1,968.32円

資本組入額(1株につき) 984.16円

割当先 大和証券株式会社

(6) 【所有者別状況】

平成29年2月28日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)							計	単元未満 株式の状 況(株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人その 他		
					個人以外	個人			
株主数 (人)	-	32	28	235	106	10	30,554	30,965	-
所有株式数 (単元)	-	66,253	7,141	30,338	9,772	29	146,826	260,359	32,072
所有株式数 の割合(%)	-	25.45	2.74	11.65	3.75	0.01	56.39	100.0	-

(注)1. 自己株式1,125,793株は「個人その他」に11,257単元、「単元未満株式の状況」に93株含めて記載しております。

2. 株式付与E S O P信託制度の信託財産として、日本マスタートラスト信託銀行株式会社(株式付与E S O P信託口)が所有している当社株式は「金融機関」に868単元、「単元未満株式の状況」に6株含めて記載しております。なお、日本マスタートラスト信託銀行株式会社(株式付与E S O P信託口)が所有している当社株式は、連結財務諸表及び財務諸表において自己株式として表示しております。

(7)【大株主の状況】

平成29年2月28日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口4)	東京都中央区晴海1丁目8-11	1,046	4.01
株式会社十八銀行	長崎県長崎市銅座町1-11	1,005	3.86
第一生命ホールディングス株式会社	東京都千代田区有楽町1丁目13-1	629	2.42
公益財団法人米瀨・リンガーハット 財団	東京都品川区大崎1-6-1	600	2.30
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7番1号	535	2.05
アサヒビール株式会社	東京都墨田区吾妻橋1丁目23-1	527	2.02
メリルリンチ日本証券株式会社	東京都中央区日本橋1丁目4-1	396	1.52
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	385	1.48
株式会社福岡銀行	福岡市中央区天神2丁目13-1	348	1.34
麒麟麦酒株式会社	東京都中野区中野4丁目10-2	332	1.28
計	-	5,806	22.27

- (注) 1. 上記日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社の所有株式は、証券投資信託等の信託業務に係る株式であります。
2. 上記のほか、自己株式が1,125千株あります。

(8) 【議決権の状況】
【発行済株式】

平成29年 2月28日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式1,125,700	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式24,910,200	249,102	-
単元未満株式	普通株式32,072	-	一単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	26,067,972	-	-
総株主の議決権	-	249,102	-

(注) 1. 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式93株及び株式付与E S O P信託口所有の当社株式6株が含まれております。

2. 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には株式付与E S O P信託口が所有する当社株式86,800株(議決権の数 868個)を含めております。

【自己株式等】

平成29年 2月28日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社リンガーハット	長崎県長崎市鍛冶屋町6番50号	1,125,700	-	1,125,700	4.32
計	-	1,125,700	-	1,125,700	4.32

(注) 自己名義所有株式数には株式付与E S O P信託口が所有する当社株式86,800株(議決権の数 868個)を含めておりません。

(9) 【ストックオプション制度の内容】
該当事項はありません。

(10) 【従業員株式所有制度の内容】

1. 従業員株式所有制度の概要

当社は従業員への福利厚生制度の拡充及び社員等の帰属意識と経営参画意識の醸成並びに長期的な業績向上や株価上昇に対する意欲や士気の高揚を図ることを目的として、平成26年7月より「株式付与E S O P信託」制度を導入しました。また、社員等に対する賞与のうち、一定割合を超える部分についてポイントを付与し、退職時に当該付与ポイントに相当する当社株式または売却代金を交付又は給付します。社員等に給付する株式については、予め信託設定した金銭により将来分も含めて取得し、信託財産として分別管理しております。

2. 従業員等に取得させる予定の株式の総数又は総額
86,806株

3 当該従業員株式所有制度による受益権その他の権利を受け取ることができる者の範囲

株式付与E S O P信託は、株式交付規定に基づき株式給付を受ける権利を取得した当社グループの社員等を対象としております。

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】

会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
取締役会(平成28年7月28日)での決議状況 (取得期間 平成28年7月29日)	550,000	1,278,750,000
当事業年度前における取得自己株式	-	-
当事業年度における取得自己株式	511,500	1,189,237,500
残存決議株式の総数及び価格の総数	38,500	89,512,500
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	7.0	7.0
当期間における取得自己株式	-	-
提出日現在の未行使割合(%)	7.0	7.0

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	1,767	4,095,938
当期間における取得自己株式	38	89,546

(注) 当期間における取得自己株式には平成29年5月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含まれておりません。

(4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他 (-)	-	-	-	-
保有自己株式数	1,125,793	-	1,125,793	-

(注) 1. 当期間における保有自己株式数には平成29年5月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取り及び買増請求による売渡の株式数は含まれておりません。

2. 株式付与E S O P信託口が所有する当社株式は、上記の自己保有株式数には含めておりません。

3【配当政策】

当社は、効率的な経営体制の整備と積極的な店舗展開により、継続的かつ強固な収益基盤を確立することで、株主へ安定した利益還元を行うことと、企業の成長を最優先として経営にあたっており、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としております。

配当額につきましては、連結ベースの配当性向30%を基準にした上で、将来の発展に備えるため、新規出店、既存店の改装及び工場設備投資等に充当する内部留保必要資金を総合的に検討し決定しております。

これら剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

また、当社は会社法第454条第5項に規定する中間配当をすることができる旨を定款に定めております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額（千円）	1株当たり配当額（円）
平成28年10月11日 取締役会決議	188,492	9.00
平成29年5月24日 定時株主総会決議	274,363	11.00

4【株価の推移】

（1）【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第49期	第50期	第51期	第52期	第53期
決算年月	平成25年2月	平成26年2月	平成27年2月	平成28年2月	平成29年2月
最高（円）	1,250	1,559	2,340	3,050	2,684
最低（円）	1,016	1,141	1,354	2,075	2,054

（注） 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

（2）【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成28年9月	10月	11月	12月	平成29年1月	2月
最高（円）	2,350	2,684	2,675	2,329	2,358	2,374
最低（円）	2,206	2,330	2,061	2,054	2,241	2,229

（注） 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

5【役員状況】

男性 9名 女性 1名 (役員のうち女性の比10%)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役会長 (代表取締役)	最高経営責任者(CEO)	米瀨 和英	昭和18年12月1日生	昭和39年3月 ㈱浜かつ(昭和48年4月㈱浜勝に、昭和57年8月㈱リンガーハットに商号変更)設立に参画 昭和40年4月 ㈱浜かつ取締役就任 昭和51年8月 ㈱浜勝(昭和57年8月㈱リンガーハットに商号変更)代表取締役社長就任 平成13年5月 リンガーハット開発㈱代表取締役会長就任 平成17年5月 当社代表取締役会長就任 リンガーハット開発㈱取締役就任(現) 平成18年5月 当社取締役会長就任 平成20年5月 当社代表取締役会長就任 平成20年9月 当社代表取締役会長兼社長就任 平成22年5月 リンガーハットジャパン㈱代表取締役社長就任 平成22年5月 浜勝㈱代表取締役社長就任 平成23年9月 浜勝㈱取締役就任(現) 平成24年5月 リンガーハットジャパン㈱取締役就任(現) 平成26年5月 当社代表取締役会長 兼CEO就任(現)	(注)4	100,757
取締役社長 (代表取締役)	-	秋本 英樹	昭和29年4月6日生	昭和53年4月 ㈱浜勝(現㈱リンガーハット)入社 平成10年5月 当社取締役東日本営業部長就任 平成17年5月 当社専務取締役営業本部長兼マーケティング本部長就任 平成18年5月 当社代表取締役専務営業本部長兼マーケティング本部長就任 平成21年5月 リンガーハット開発㈱代表取締役社長就任 平成25年11月 当社副社長執行役員管理部担当就任 平成26年5月 当社代表取締役社長就任(現)	(注)4	12,547
取締役副社長	-	前田 泰司	昭和29年1月12日生	昭和53年4月 ㈱浜勝(現㈱リンガーハット)入社 平成10年10月 当社福岡工場長就任 平成10年11月 当社社長室NPS推進担当就任 平成11年3月 当社太宰府工場長就任 平成11年5月 当社取締役太宰府工場長就任 平成13年2月 当社取締役就任 平成13年5月 当社執行役員生産本部長就任 平成14年2月 当社執行役員生産事業部長就任 平成14年5月 当社取締役生産事業部長就任 平成14年9月 当社取締役東日本営業事業部長就任 平成15年12月 当社取締役生産本部長就任 平成22年5月 当社常務取締役モデル店舗開発・技術開発統括責任者就任 平成23年9月 リンガーハットジャパン㈱代表取締役社長就任(現) 平成23年9月 当社常務取締役就任 平成26年5月 当社専務取締役就任 平成28年5月 当社取締役副社長就任(現)	(注)4	11,370

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
専務取締役	-	八幡 和幸	昭和30年9月29日生	昭和53年4月 ㈱浜勝(現㈱リンガーハット)入社 平成6年1月 当社経理部長就任 平成10年5月 当社取締役管理本部長就任 平成12年1月 当社取締役商品本部長就任 平成13年6月 当社執行役員購買担当就任 平成14年9月 当社執行役員浜勝事業部長就任 平成15年12月 当社執行役員管理本部長就任 平成16年5月 当社取締役管理本部長就任 平成16年5月 リンガーハット開発㈱取締役就任 (現) 平成17年5月 当社専務取締役管理本部長就任 平成18年9月 リンガーハットジャパン㈱取締役 就任(現) 平成18年12月 浜勝㈱取締役就任 平成21年5月 当社取締役管理本部長就任 平成22年5月 当社専務取締役グループ中期経営 計画・財務統括責任者就任 平成23年9月 浜勝㈱代表取締役社長就任(現) 平成23年9月 当社専務取締役就任 平成26年5月 当社専務取締役就任(現)	(注)4	12,751
取締役	生産部担当	佐々野 諸延	昭和35年8月18日生	昭和58年2月 当社入社 平成13年2月 当社RNPS推進室長就任 平成16年3月 当社執行役員西日本営業事業部長 就任 平成22年5月 リンガーハットジャパン㈱取締役 就任 平成23年10月 当社執行役員管理グループ担当兼 総務人事部長就任 平成24年5月 当社取締役管理部担当兼総務人事 グループ長就任 平成24年5月 当社取締役管理部担当就任 平成25年11月 当社取締役生産部担当就任(現)	(注)4	11,211
取締役	海外・沖縄 事業本部担 当	福原 扶美勇	昭和37年9月14日生	平成9年9月 当社入社 平成12年3月 当社関西中京営業部長就任 平成16年3月 当社執行役員東日本事業部長就任 平成22年6月 当社執行役員マーケティング部長 就任 平成25年11月 当社執行役員海外事業本部リー ダー就任 平成25年11月 Ringer Hut Hawaii Inc.社長就任 (現) 平成12年12月 Ringer Hut(Thailand) Co.,Ltd. 社長就任(現) 平成25年12月 Champion Foods Co.,Ltd.社長就 任(現) 平成26年5月 当社取締役海外事業本部担当就任 平成27年3月 当社取締役海外・沖縄事業本部担 当就任(現)	(注)4	8,155
取締役	管理部担当	小田 昌広	昭和34年12月9日生	昭和57年6月 ㈱浜勝(現㈱リンガーハット)入社 平成22年6月 当社経営情報部長就任 平成23年8月 当社経営戦略室長就任 平成25年3月 当社執行役員経営管理グループ担 当就任 平成26年5月 当社執行役員管理部兼品質保証 チーム担当就任 平成29年5月 当社取締役管理部担当就任(現)	(注)8	3,000

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役	-	米瀨 証二	昭和13年1月17日生	昭和39年1月 ㈱日立製作所入社 昭和40年4月 ㈱浜かつ(昭和48年4月㈱浜勝に、昭和57年8月㈱リンガーハットに商号変更)監査役就任 昭和49年3月 ㈱浜勝(昭和57年8月㈱リンガーハットに商号変更)入社 昭和51年8月 ㈱浜勝(現㈱リンガーハット)代表取締役副社長就任 昭和54年4月 ㈱浜勝(現㈱リンガーハット)代表取締役会長就任 平成13年5月 リンガーハット開発㈱取締役就任 平成15年5月 当社取締役最高顧問就任(現)	(注)4	119,400
取締役	-	川崎 享	昭和40年4月28日生	平成20年5月 株式会社エム・アイ・ピー入社 平成25年5月 同社代表取締役社長(現) 平成27年5月 当社取締役就任(現)	(注)4	1,000
取締役	-	金子 美智子	昭和34年6月3日生	昭和55年4月 日本航空株式会社入社 平成19年4月 同社客室乗員室長就任 平成21年4月 同社安全推進本部次長就任 平成22年4月 同社客室安全推進部長就任 平成24年5月 同社第2客室乗員部長就任 平成27年5月 同社退社 平成27年9月 当社顧問就任 平成28年5月 当社取締役就任(現)	(注)5	1,000

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
常勤監査役	-	内田 智明	昭和28年7月16日生	昭和52年12月 株式会社浜勝(現当社)入社 平成16年5月 リンガーハット情報システム株式会社(旧当社完全子会社)取締役就任 平成17年3月 当社情報システム部担当執行役員就任 平成22年6月 当社管理本部長就任 平成24年12月 当社情報システムチーム担当執行役員就任 平成28年3月 当社常勤監査役就任(現)	(注)6	2,200
監査役	-	上野 守生	昭和14年11月5日生	昭和51年1月 垂細亜証券株式会社(現株式会社プロネクサス)代表取締役社長 平成20年6月 株式会社プロネクサス代表取締役社長兼CEO 平成22年6月 同社代表取締役会長 平成23年5月 当社監査役就任(現) 平成27年6月 株式会社プロネクサス取締役会長(現)	(注)7	-
監査役	-	山内 信俊	昭和22年3月31日生	昭和47年4月 弁護士登録 昭和60年2月 尚和法律事務所シニアパートナー 平成14年1月 外国法共同事業ジョーンズ・デイ法律事務所東京事務所パートナー 平成27年1月 同事務所オブ・カウンセル 平成28年5月 当社監査役就任(現)	(注)6	2,000
計						285,391

- (注)1. 取締役川崎享、金子美智子は、社外取締役であります。
2. 監査役上野守生、山内信俊は、社外監査役であります。
3. 非常勤取締役米瀨証二は、取締役会長米瀨和英の兄であります。

- 4 . 平成27年 5 月27日開催の定時株主総会の終結の時から 2 年間
- 5 . 平成28年 5 月25日開催の定時株主総会の終結の時から 2 年間
- 6 . 平成28年 5 月25日開催の定時株主総会の終結の時から 4 年間
- 7 . 平成27年 5 月27日開催の定時株主総会の終結の時から 4 年間
- 8 . 平成29年 5 月24日開催の定時株主総会の終結の時から 2 年間
- 9 . 当社では、意思決定・監督と執行の分離による取締役会の活性化のため、執行役員制度を導入しております。執行役員は 7 名で、モデル店舗開発チーム担当山崎繁樹、フランチャイズ営業グループ担当井原康晴、店舗開発部担当中島吉弘、営業戦略部担当川内辰雄、購買チーム担当杉野隆宏、マーケティング部担当岡野弘明、小山生産管理チーム担当執行役員種川浩之であります。

6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

企業統治の体制

(企業統治の体制の概要と、その体制を採用する理由)

当社は監査役設置会社であり、経営上の最高意思決定機関である取締役会は、取締役10名(うち社外取締役2名)で構成され、当社の業務執行を決定し、取締役の職務の執行を監督する権限を有しており、「企業は社会の公器」という基本理念に基づき、コーポレート・ガバナンスの強化に取り組んでおります。なお取締役の任期は、中長期的な視点に立った経営の遂行とモチベーション維持の観点より2年としております。

監査役会は、監査役3名(うち社外監査役2名)で構成され、コーポレート・ガバナンスのあり方とその運営状況を監視し、取締役の職務の執行を含む経営の日常的活動の監査を行っております。

平成13年度より、意思決定・監督と執行の分離による取締役会の活性化のため、また各事業分野の責任体制を明確にすることを目的とした執行役員制度を導入しております。執行役員は7名で、取締役会は、経営案件について、スピーディーで戦略的な意思決定と健全で適切なモニタリングの両立を行うべく、戦略の決定と事業の監督に集中することとし、執行責任を負う「役員」との機能分担の明確化を図っております。リンガーハットグループ全体に影響を及ぼすような重要事項については、常勤の取締役、監査役及び執行役員が参加し、年に数回開催される経営会議において議論し、決定されます。

また、平成17年度より設置したCSRチームにセルフチェック機能を持たせ、コンプライアンス体制をなお一層強化するとともに、さらなる取締役会の機能強化のため、週1回の頻度で常勤取締役による常勤役員会を開催し、情報交換と課題の明確化を図っております。

(内部統制システムの整備の状況)

(イ) 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

当社グループの役員並びに従業員は、「リンガーハットグループ行動基準」に掲げる五つの実践訓によって形成される倫理観並びに行動基準を指針とし、企業の社会的責任(CSR)を果たし、その基礎となる法令・定款を遵守するコンプライアンス体制を推進しております。最新のCSR活動について毎年「社会・環境報告書」としてまとめ、企業倫理観の認識を共有し、コンプライアンス体制推進の一助としております。現に、取り組んでいる最新のCSR活動についてまとめられた「社会・環境報告書」は2010年度より継続して発行され、グループ内全社で企業倫理観の認識をステークホルダーの方々と共に共有しながら社会的使命を果たすとともに、コンプライアンス体制推進の一助としております。

(ロ) 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役は、取締役会規則並びにリンガーハットグループ役員内規の定めに従って職務を遂行し、その職務執行に係る電磁的記録を含む議事録・資料書類等については、厳重な管理のもと、適切に保管する体制を推進しております。電磁的記録の管理は「情報セキュリティ管理規定」に基づき、重要ファイルはサーバーそのものへのアクセス制限を厳重に行う措置をとっております。

(ハ) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

既存の危機管理マニュアルを十分に運用しつつ、また想定されるあらゆるリスク評価と見直しをCSRチームを中心に行っていく体制を推進しております。特に食の安全・安心の根幹である生産工場においては、ISO22000を認証取得後、その継続審査を受けることで、常に仕組みの改善と同時にリスク想定の見直しや、リスクマネジメント強化が図られています。

(ニ) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

常勤の取締役で構成する常勤役員会の設置と、職務権限規程に定める業務分掌により、各取締役が常に適正かつ効率的に職務執行ができる体制を推進しております。

常勤役員会は毎週1回の開催を原則として実施、執行役員のほか、各部署担当者からの重要案件の報告など、風通しが良い協議の場として開催し、取締役の迅速な経営判断と効率的な業務執行ができる体制としております。

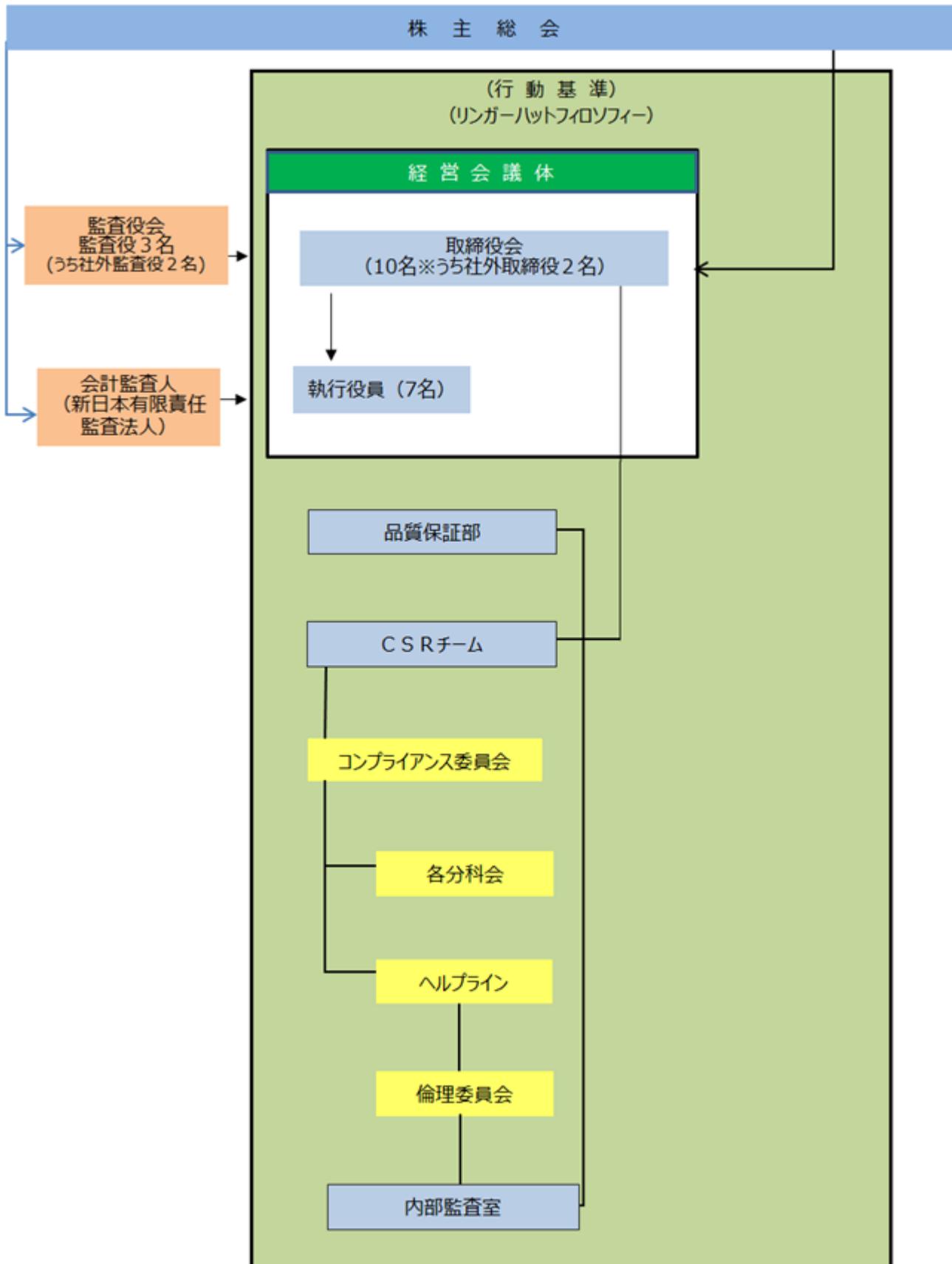
(ホ) 使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

使用人のコンプライアンス体制を確保するため倫理委員会を設置し、リンガーハット・ヘルプラインを運営しながら法令・定款違反を未然に防止する体制を推進しております。

「すべてのお客さまに、楽しい食事のひとつときを、心と技術でつくるリンガーハットグループ」という企業使命観を基に、コンプライアンスも含め「人として」正しくあるべき姿や企業理念を明文化した「リンガーハットフィロソフィー」を策定し、各部朝礼で輪読し、共通の企業理念が実践される風土づくりに取り組んでおります。また、さらに理解を深める施策として「フィロソフィーセミナー」を開催し、延べ400名以上が受講いたしました。

- (へ) 会社並びに親会社及び子会社からなる企業集団における業務の適正を確保するための体制
会社あるいはリンガーハットグループ全体に影響を及ぼす重要事項については、会議開催による多面的な検討を経て慎重に決定する仕組みとして、同グループの取締役、執行役員及び監査役で構成する経営会議を開催しております。また、業務運営の状況を把握し、その改善を図るため内部監査を実施しております。
年2回の経営合宿はもとより、グループ各社のチームリーダーの全員による全体会議を月1回開催し、重要事項に関する情報は必ず共有と確認をする体制としております。
また、内部監査室は定期的に事業子会社に対する業務の内部監査を実施し、指摘・改善に努めるとともに、個別の店舗監査結果等も主要役職者へ回覧報告されております。
- (ト) 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項
社長直轄の内部監査室が監査役の職務の補助を行っております。また内部監査室の人事異動及び人事考課については、監査役の同意を得たうえで決定しております。内部監査室は組織上独立しており、監査役の職務の補佐を行っております。
- (チ) 取締役及び使用人が監査役に報告をするための体制、その他の監査役への報告に関する体制
会社の信用失墜や業績に重大な影響を及ぼす恐れのある事項、また「リンガーハットグループ行動基準」に著しく反する事実があった場合に、リンガーハット・ヘルプラインが有効に機能し、取締役はその報告を監査役に遅滞なく報告できる体制を推進するため、ヘルプラインの通報のうち、特に会社の社会的信用に影響を及ぼす事項があった場合には、CSRチームを通じて直ちに監査役、取締役へ報告される体制が敷かれております。
- (リ) その他監査役が実効的に行われることを確保するための体制
監査役の独立性要件を確保するため、監査役会規則の整備をしております。また監査役は経営合宿等の重要な会議への出席ができることとしております。さらに総務人事チーム、CSRチームは必要に応じて監査役の職務を補助することができ、内部監査室及び会計監査人は、監査役との連携を図り、適切な意思疎通と監査に必要な情報の共有及び実効的な監査業務の遂行を支援しております。
監査役会規則、監査役監査基準、内部統制関係諸規定がそれぞれ整備されております。内部監査室が総務人事チーム、CSRチームと連携して監査役を補佐することにより適正な監査体制を構築しております。

なお、当社のコーポレート・ガバナンス体制の状況を図によって示すと次のとおりであります。



内部監査及び監査役監査の状況

当社は、内部監査室に4名を配置し、常勤監査役と協力して定期的な内部監査を行うとともに、結果を社内
に公表しております。

当社の監査役会は、監査役3名（うち社外監査役2名）で構成され、コーポレート・ガバナンスのあり方と
その運営状況を監視し、取締役の職務の執行を含む経営の日常的活動の監査を行っております。また、監査役は
株主総会や取締役会への出席や、取締役、執行役員、従業員及び会計監査人からの報告收受をはじめとする法律
上の権限行使のほか、特に常勤監査役は、重要な会議への出席や事業所への往査など、実効性あるモニタリング
に取り組むとともに会計監査人である新日本有限責任監査法人との連携のもと、取締役及び執行役員の業務執行
を監査しております。

社外取締役及び社外監査役

当社の社外取締役は2名であります。

社外取締役川崎享氏は、株式会社エム・アイ・ピーの代表取締役として経営に携わりながら、経営効率の追求
と企業体質の改善強化を図るNPS研究会を主宰され、多業種にわたる広範な知識と見識を有しております。

川崎享氏は当社株式を1,000株所有しており、また、当社は川崎享氏が代表取締役を務める株式会社エム・ア
イ・ピーとの間で、同社が主宰するNPS（ニュー・プロダクション・システム）研究会におけるコンサルティ
ング契約を締結しておりますが、当事業年度における支払会費は連結販売費及び一般管理費の0.1%未満であ
り、一般株主と利益相反を生じるおそれのない範囲の額と判断しております。

なお、当社代表取締役会長の米濱和英は、株式会社エム・アイ・ピーの監査役を兼務しておりますが、その職
務はあくまで同社の適法性監査を主とする非業務執行者の立場であり、その兼務の事実が直ちに川崎享氏の当社
における社外取締役としての独立性や当社ガバナンス体制に何ら影響を及ぼすものではないと判断しており
ます。

社外取締役金子美智子氏は、特に安全性が厳しく求められる航空業界において、安全推進及び安全への意識づ
くりや、数多くの女性が活躍する客室乗務員の育成指導の最前線に携わった経験により、独自の立場での経営へ
の監督と助言が期待され、より広い視点でのガバナンス向上に資する人財であります。

金子美智子氏は当社株式を1,000株所有しており、また、当社は同氏との間で顧問契約を締結しており、当事
業年度における顧問料は連結販売費及び一般管理費の0.1%未満で、一般株主と利益相反を生じるおそれのない
範囲の額であり、また社外取締役としての独立性やガバナンス体制に何ら影響を及ぼすものでないと判断して
おります。

当社の社外監査役は2名であります。

社外監査役のうち、上野守生氏はディスクロージャー支援会社である株式会社プロネクサスの経営者としての
長年の経験と見識を有しております。当社と株式会社プロネクサスとの間で取引がありますが、会社法及び金商
法に関する法定書類の作成であり、同氏の独立性や当社ガバナンス体制に何ら影響を与えるものではないと判断
しております。また、山内信俊氏は弁護士であり、国内外における訴訟戦略や商取引等に関する高い見識と豊富
な経験を有しております。当社顧問弁護士契約先のカウンセルを務めておりますが、顧問報酬の額は一般株主と
の利益相反を生じる恐れのない範囲の額であります。

なお、現任の社外取締役2名及び社外監査役2名は、当社コーポレート・ガバナンス原則4-9に基づく「上
場規程に規定される独立性基準のクリアは無論のこと、社外ならではの独自の知見や能力を備えた人財」である
と判断し、一般株主保護の観点より、一般株主と利益相反のおそれがない、コーポレート・ガバナンスを有効に
機能させる役割を持つ独立役員として、東京証券取引所ならびに福岡証券取引所へ届け出ており、外部からの経
営監視機能が十分に機能する体制が整っております。

役員報酬の内容

(イ) 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)				対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く)	166,650	166,650	-	-	-	7
監査役 (社外監査役を除く)	10,080	10,080	-	-	-	2
社外役員	11,250	11,250	-	-	-	5

(注) なお、当社の取締役報酬限度額は、平成13年1月23日開催の臨時株主総会決議において、月額300万円以
内と決議されております。

- (ロ) 提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等
連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。
- (ハ) 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法
当社は、役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針は定めておりません。

株式の保有状況

(イ) 保有目的が純投資以外の目的である投資株式

銘柄数 18銘柄

貸借対照表計上額の合計額 640,819千円

(ロ) 保有目的が純投資以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

前事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
(株)ハチバン	1,526,000	959,854	取引先との連携強化
岩塚製菓(株)	50,000	272,000	取引先との連携強化
(株)キッツ	200,000	94,600	取引先との連携強化
(株)十八銀行	324,400	82,073	金融機関との連携強化
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	120,000	58,392	金融機関との連携強化
(株)ふくおかフィナンシャルグループ	127,400	45,609	金融機関との連携強化
(株)西日本シティ銀行	120,000	24,480	金融機関との連携強化
(株)南陽	16,000	12,416	取引先との連携強化
イオン(株)	5,270	8,971	取引先との連携強化
(株)昭和鉄工	30,000	5,400	取引先との連携強化

当事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
岩塚製菓(株)	50,000	217,750	取引先との連携強化
(株)十八銀行	324,400	118,730	金融機関との連携強化
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	120,000	88,608	金融機関との連携強化
(株)ふくおかフィナンシャルグループ	127,400	66,757	金融機関との連携強化
(株)南陽	16,000	29,264	取引先との連携強化
(株)西日本シティ銀行	24,000	29,208	金融機関との連携強化
イオン(株)	6,909	11,573	取引先との連携強化
(株)昭和鉄工	30,000	6,750	取引先との連携強化
イオンモール(株)	2,089	3,604	取引先との連携強化
第一生命ホールディングス(株)	1,700	3,591	金融機関との連携強化

会計監査の状況

会計監査につきましては、新日本有限責任監査法人と監査契約を締結しております。当期において、業務を執行した公認会計士は次のとおりであります。

公認会計士の氏名等		所属する監査法人名
指定有限責任社員・業務執行社員	森 行一	新日本有限責任監査法人
	矢野 真紀	

(注) 継続監査年数については、7年を超える者がおりませんので記載を省略しております。

なお、当社の会計監査業務に係る補助者の構成は以下のとおりです。

公認会計士15名 その他14名

また、当社と会計監査人新日本有限責任監査法人とは、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、会社法第425条第1項に定める最低責任限度額としております。

責任限定契約の内容

当社と社外監査役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令が定める額を上限としております。なお、当該責任限定が認められるのは、当該社外監査役がその職務を行うにつき善意でありかつ重大な過失がないときに限られております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使できる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨、及び累積投票によらないものとする旨定款に定めております。

株主総会決議事項を取締役会で決議することができる事項

(イ) 自己株式の取得

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議により自己株式を取得することができる旨定款に定めております。これは、経営環境の変化に対応して機動的な資本政策の遂行を可能にすることを目的とするものであります。

(ロ) 中間配当

当社は、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議により毎年8月31日を基準日として、中間配当を行うことができる旨定款に定めております。これは、株主への機動的な利益還元を可能とするためであります。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	38,000	-	40,000	2,000
連結子会社	-	-	-	-
計	38,000	-	40,000	2,000

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

当社が監査公認会計士等に対して報酬を支払っている非監査業務の内容としましては、コンフォートレター作成業務等となっております。

【監査報酬の決定方針】

監査に要する日数及び時間を勘案した上、決定しております。

第5【経理の状況】

1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度及び事業年度（平成28年3月1日から平成29年2月28日まで）の連結財務諸表及び財務諸表について新日本有限責任監査法人による監査を受けております。

3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適正に把握し、会計基準等の変更等についての確に対応するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入しております。

1【連結財務諸表等】

(1)【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年2月29日)	当連結会計年度 (平成29年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,711,400	8,906,956
売掛金	633,775	708,690
商品及び製品	62,069	97,644
仕掛品	22,152	21,333
原材料及び貯蔵品	245,794	229,574
前払費用	340,376	306,429
繰延税金資産	119,281	197,351
未収入金	550,946	651,373
その他	216,939	188,082
流動資産合計	3,902,734	11,307,438
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	22,095,548	22,738,334
減価償却累計額	13,452,701	13,526,907
建物及び構築物(純額)	8,642,846	9,211,427
機械装置及び運搬具	2,058,656	2,138,747
減価償却累計額	1,267,774	1,359,076
機械装置及び運搬具(純額)	790,882	779,671
土地	4,804,693	4,820,693
リース資産	423,079	500,219
減価償却累計額	239,648	311,630
リース資産(純額)	183,431	188,588
建設仮勘定	116,856	76,420
その他	3,629,859	3,601,713
減価償却累計額	2,852,837	2,835,038
その他(純額)	777,021	766,674
有形固定資産合計	15,315,732	15,843,475
無形固定資産		
投資その他の資産	384,994	387,997
投資その他の資産		
投資有価証券	1,719,252	1,877,071
繰延税金資産	520,462	690,995
退職給付に係る資産	62,273	78,305
差入保証金	1,052,500	1,090,097
建設協力金	84,898	123,215
敷金	2,468,699	2,526,549
その他	339,543	290,230
貸倒引当金	22,605	22,605
投資その他の資産合計	6,225,023	5,653,859
固定資産合計	21,925,750	21,885,332
資産合計	25,828,485	33,192,770

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年2月29日)	当連結会計年度 (平成29年2月28日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	878,196	864,983
1年内償還予定の社債	256,000	236,000
短期借入金	2,290,000	2,100,000
1年内返済予定の長期借入金	1,428,459	1,197,775
リース債務	105,956	126,931
未払金	722,688	685,172
未払費用	932,546	968,985
未払法人税等	563,432	620,325
未払消費税等	311,916	277,421
株主優待引当金	67,338	82,780
店舗閉鎖損失引当金	-	15,667
販売促進引当金	6,356	4,529
資産除去債務	2,002	49,813
その他	296,942	389,895
流動負債合計	7,861,834	7,620,281
固定負債		
社債	1,232,000	996,000
長期借入金	2,293,370	2,116,105
長期末払金	428,715	428,041
リース債務	305,229	296,879
株式給付引当金	56,750	98,007
退職給付に係る負債	935,972	973,618
長期預り保証金	391,017	387,617
資産除去債務	1,129,767	1,172,958
その他	23,982	97,859
固定負債合計	6,796,805	6,567,086
負債合計	14,658,640	14,187,368
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,066,122	9,002,762
資本剰余金	4,486,942	8,423,582
利益剰余金	2,818,809	4,079,005
自己株式	1,621,762	2,810,407
株主資本合計	10,750,112	18,694,943
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	297,843	207,093
為替換算調整勘定	87,474	73,130
退職給付に係る調整累計額	34,415	30,234
その他の包括利益累計額合計	419,732	310,458
純資産合計	11,169,845	19,005,402
負債純資産合計	25,828,485	33,192,770

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成27年3月1日 至 平成28年2月29日)	当連結会計年度 (自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)
売上高	39,731,933	42,569,907
売上原価	12,891,566	13,855,572
売上総利益	26,840,367	28,714,334
その他の営業収入	1,397,494	1,274,826
営業総利益	28,237,861	29,989,161
販売費及び一般管理費		
給料及び手当	10,838,150	11,584,194
退職給付費用	149,957	122,114
賃借料	4,497,326	4,700,008
水道光熱費	1,716,570	1,639,459
株主優待引当金繰入額	79,971	94,844
減価償却費	1,072,717	1,135,564
その他	1,704,809	1,742,882
販売費及び一般管理費合計	25,403,503	26,705,068
営業利益	2,834,358	3,284,092
営業外収益		
受取利息	6,375	4,986
受取配当金	18,718	17,357
為替差益	-	212
その他	30,892	38,598
営業外収益合計	55,986	61,155
営業外費用		
支払利息	70,207	60,163
社債発行費	33,858	-
株式交付費	-	43,684
為替差損	47,160	-
持分法による投資損失	9,371	23,209
その他	48,400	59,703
営業外費用合計	208,999	186,760
経常利益	2,681,345	3,158,487
特別利益		
固定資産売却益	2,126,7	-
投資有価証券売却益	-	201,123
収用補償金	27,831	21,166
受取補償金	40,000	-
その他	-	6,373
特別利益合計	69,098	228,663
特別損失		
固定資産売却損	3,260,3	3,371
固定資産除却損	4,134,982	4,129,424
店舗閉鎖損失引当金繰入額	8,407	33,498
災害による損失	-	27,395
減損損失	5,200,584	5,543,749
特別損失合計	346,577	734,439
税金等調整前当期純利益	2,403,866	2,652,711
法人税、住民税及び事業税	972,019	1,202,517
法人税等調整額	160,008	170,137
法人税等合計	1,132,027	1,032,380
当期純利益	1,271,838	1,620,331
親会社株主に帰属する当期純利益	1,271,838	1,620,331

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成27年3月1日 至 平成28年2月29日)	当連結会計年度 (自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)
当期純利益	1,271,838	1,620,331
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	144,505	90,749
為替換算調整勘定	25,248	13,401
退職給付に係る調整額	22,081	4,180
持分法適用会社に対する持分相当額	120	942
その他の包括利益合計	141,218	109,274
包括利益	1,130,619	1,511,057
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	1,130,619	1,511,057
非支配株主に係る包括利益	-	-

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 平成27年3月1日 至 平成28年2月29日）

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	5,066,122	4,486,942	1,922,013	169,873	11,305,205
会計方針の変更による累積的影響額			65		65
会計方針の変更を反映した当期首残高	5,066,122	4,486,942	1,921,948	169,873	11,305,140
当期変動額					
剰余金の配当			374,977		374,977
親会社株主に帰属する当期純利益			1,271,838		1,271,838
自己株式の取得				1,453,960	1,453,960
自己株式の処分				2,071	2,071
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	-	896,861	1,451,889	555,027
当期末残高	5,066,122	4,486,942	2,818,809	1,621,762	10,750,112

	その他の包括利益累計額				純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	442,348	62,106	56,496	560,951	11,866,157
会計方針の変更による累積的影響額					65
会計方針の変更を反映した当期首残高	442,348	62,106	56,496	560,951	11,866,092
当期変動額					
剰余金の配当					374,977
親会社株主に帰属する当期純利益					1,271,838
自己株式の取得					1,453,960
自己株式の処分					2,071
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	144,505	25,368	22,081	141,218	141,218
当期変動額合計	144,505	25,368	22,081	141,218	696,246
当期末残高	297,843	87,474	34,415	419,732	11,169,845

当連結会計年度（自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日）

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	5,066,122	4,486,942	2,818,809	1,621,762	10,750,112
会計方針の変更による累積的影響額					-
会計方針の変更を反映した当期首残高	5,066,122	4,486,942	2,818,809	1,621,762	10,750,112
当期変動額					
新株の発行	3,936,640	3,936,640			7,873,280
剰余金の配当			360,135		360,135
親会社株主に帰属する当期純利益			1,620,331		1,620,331
自己株式の取得				1,193,333	1,193,333
自己株式の処分				4,688	4,688
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	3,936,640	3,936,640	1,260,196	1,188,645	7,944,830
当期末残高	9,002,762	8,423,582	4,079,005	2,810,407	18,694,943

	その他の包括利益累計額				純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	297,843	87,474	34,415	419,732	11,169,845
会計方針の変更による累積的影響額					-
会計方針の変更を反映した当期首残高	297,843	87,474	34,415	419,732	11,169,845
当期変動額					
新株の発行					7,873,280
剰余金の配当					360,135
親会社株主に帰属する当期純利益					1,620,331
自己株式の取得					1,193,333
自己株式の処分					4,688
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	90,749	14,343	4,180	109,274	109,274
当期変動額合計	90,749	14,343	4,180	109,274	7,835,556
当期末残高	207,093	73,130	30,234	310,458	19,005,402

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成27年3月1日 至 平成28年2月29日)	当連結会計年度 (自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	2,403,866	2,652,711
減価償却費	1,319,891	1,445,236
減損損失	200,584	543,749
のれん償却額	19,425	3,168
株主優待引当金の増減額（は減少）	5,364	15,441
退職給付に係る負債の増減額（は減少）	109,062	37,646
退職給付に係る資産の増減額（は増加）	42,398	16,032
店舗閉鎖損失引当金の増減額（は減少）	4,100	15,667
受取利息及び受取配当金	25,093	22,344
支払利息	70,207	60,163
株式交付費	-	43,684
社債発行費	33,858	-
持分法による投資損益（は益）	9,371	23,209
投資有価証券売却損益（は益）	-	201,123
固定資産売却損益（は益）	1,336	371
固定資産除却損	134,982	129,424
売上債権の増減額（は増加）	3,995	74,864
たな卸資産の増減額（は増加）	15,890	18,356
仕入債務の増減額（は減少）	2,380	13,867
未払消費税等の増減額（は減少）	218,146	34,495
その他の流動資産の増減額（は増加）	96,279	38,715
その他の流動負債の増減額（は減少）	47,064	170,390
長期未払金の増減額（は減少）	4,143	674
預り保証金の増減額（は減少）	3,883	3,400
その他	58,799	75,927
小計	4,206,117	4,792,919
利息及び配当金の受取額	22,068	19,325
利息の支払額	66,875	58,755
法人税等の支払額	975,712	1,208,864
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,185,598	3,544,625
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	2,348,024	2,357,072
有形固定資産の売却による収入	571,393	40,661
無形固定資産の取得による支出	12,307	19,273
建設協力金等の支払による支出	262,161	253,343
建設協力金等の回収による収入	275,793	160,965
投資有価証券の取得による支出	2,543	2,585
投資有価証券の売却による収入	-	1,029,501
子会社株式の取得による支出	1,977	74,000
関連会社株式の取得による支出	-	100,310
その他	86,699	38,594
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,866,526	1,614,051

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成27年3月1日 至 平成28年2月29日)	当連結会計年度 (自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	620,000	190,000
長期借入れによる収入	900,000	1,200,000
長期借入金の返済による支出	2,279,864	1,607,949
社債の発行による収入	1,466,141	-
社債の償還による支出	272,000	256,000
自己株式の取得による支出	1,453,960	1,193,333
自己株式の処分による収入	2,071	4,688
株式の発行による収入	-	7,829,595
配当金の支払額	370,109	384,108
ファイナンス・リース債務の返済による支出	103,928	126,361
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,491,648	5,276,531
現金及び現金同等物に係る換算差額	26,906	11,549
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	145,671	7,195,556
現金及び現金同等物の期首残高	1,857,072	1,711,400
現金及び現金同等物の期末残高	1,711,400	8,906,956

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数及び名称

連結子会社の数 7社

連結子会社名

リンガーハットジャパン株式会社

浜勝株式会社

リンガーフーズ株式会社

リンガーハット開発株式会社

Ringer Hut Hawaii Inc.

Ringer Hut(Thailand) Co.,Ltd.

Champion Foods Co.,Ltd.

非連結子会社の状況

非連結子会社の数 1社

非連結子会社名

株式会社ミヤタ

連結の範囲から除いた理由

非連結子会社は、小規模会社であり、合計の総資産、売上高、当期純利損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。

2. 持分法の適用に関する事項

持分法適用の関連会社数 1社

関連会社名

Ringer Hut Hong Kong Co.,Ltd.

持分法を適用していない非連結子会社及び関連会社

非連結子会社数 1社

株式会社ミヤタ

関連会社数 2社

台湾棧閣屋有限公司

PT Ringer Hut Indonesia

持分法の範囲から除いた理由

持分法を適用していない非連結子会社及び関連会社は、小規模会社であり、当期純利損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体として重要性がないため持分法の適用範囲から除外しております。

持分法の適用の手続きについて特に記載すべき事項

決算日が連結決算日と異なるRinger Hut Hong Kong Co.,Ltd.については、当該会社の事業年度に係る財務諸表を使用しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

Ringer Hut Hawaii Inc.、Ringer Hut(Thailand) Co.,Ltd.、Champion Foods Co.,Ltd.の事業年度の決算日は12月31日であります。

連結財務諸表作成にあたっては、同日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

その他の連結子会社の決算日は、連結決算日と同一であります。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの

移動平均法に基づく原価法

たな卸資産

(イ) 商品及び製品

月別移動平均法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）

(ロ) 仕掛品

個別法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）

(ハ) 原材料及び貯蔵品

・原材料

月別移動平均法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）

・貯蔵品

最終仕入原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）

デリバティブ

時価法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。

なお、平成11年3月1日以降取得した取得価額10万円以上20万円未満の資産については、3年間で均等償却する方法を採用しております。

また、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 10 ～ 31年

機械装置及び運搬具 2 ～ 10年

無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。

また、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

株主優待引当金

株主優待券の利用による費用負担に備えるため、株主優待券の利用実績率に基づき、当連結会計年度末において将来利用されると見込まれる額を計上しております。

店舗閉鎖損失引当金

店舗等の閉鎖に伴い発生する損失に備えるため、撤退に伴う違約金等についての閉店関連損失見込額を計上しております。

販売促進引当金

販売促進のための割引券等の利用による費用負担に備えるため、利用実績率に基づき、当連結会計年度末において将来利用されると見込まれる額を計上しております。

株式給付引当金

株式付与規程に基づく従業員の当社株式の給付に備えるため、給付見込額のうち当連結会計年度に負担すべき額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（3年）による定額法により按分した額を翌連結会計年度より損益処理することとしております。

(5) 重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

金利スワップについては、特例処理の要件を満たしているため、特例処理を採用しております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段.....金利スワップ

ヘッジ対象.....借入金

ヘッジ方針

借入金の金利変動リスクを回避する目的で金利スワップ取引を行っております。

ヘッジの有効性評価の方法

特例処理によっている金利スワップについては、有効性の評価を省略しております。

(6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式を採用しております。

(会計方針の変更)

(企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)等を当連結会計年度から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更しております。

また、当連結会計年度の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する連結会計年度の連結財務諸表に反映させる方法に変更しております。加えて、当期純利益等の表示の変更を行っております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、当連結会計年度の期首時点から将来にわたって適用しております。

これによる連結財務諸表に与える影響はありません。

(未適用の会計基準等)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)

(1) 概要

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」は、日本公認会計士協会における税効果会計に関する会計上の実務指針及び監査上の実務指針(会計処理に関する部分)を企業会計基準委員会に移管するに際して、企業会計基準委員会が、当該実務指針のうち主に日本公認会計士協会監査委員会報告第66号「繰延税金資産の回収可能性の判断に関する監査上の取扱い」において定められている繰延税金資産の回収可能性に関する指針について、企業を5つに分類し、当該分類に応じて繰延税金資産の計上額を見積るという取扱いの枠組みを基本的に踏襲した上で、分類の要件及び繰延税金資産の計上額の取扱いの一部について必要な見直しを行ったもので、繰延税金資産の回収可能性について、「税効果会計に係る会計基準」(企業会計審議会)を適用する際の指針を定めたものであります。

(2) 適用予定日

平成29年3月1日以後開始する連結会計年度の期首から適用します。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」の適用による連結財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中であります。

(追加情報)

当社は、従業員への福利厚生制度の拡充及び社員等の帰属意識と経営参画意識の醸成並びに長期的な業績向上や株価上昇に対する意欲や士気の高揚を図ることを目的として、平成26年7月より「株式付与E S O P信託」制度を導入しました。

1. 取引の概要

当社は、従業員に対する賞与のうち、一定割合を超える部分についてポイントを付与し、退職時に当該付与ポイントに相当する当社株式または売却代金を交付又は給付します。従業員に給付する株式については、予め信託設定した金銭により将来分も含めて取得し、信託財産として分別管理しております。

2. 信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を信託における帳簿価額（付随費用の金額を除く）により純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、前連結会計年度147,438千円、89,657株、当連結会計年度142,750千円、86,806株であります。

(連結貸借対照表関係)

1 非連結子会社及び関連会社に対するものは次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年2月29日)	当連結会計年度 (平成29年2月28日)
投資有価証券(株式)	86,093千円	236,251千円

2 偶発債務

当社は、在外子会社Ringer Hut(Thailand)Co.,Ltd.への出資に関して、MHC B Consulting(Thailand) Co.,Ltd.の出資額(1,920千パーツ)について保証を行っております。保証契約に係る出資額の円換算額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年2月29日)	当連結会計年度 (平成29年2月28日)
MHC B Consulting(Thailand)Co.,Ltd.	6,105千円	6,201千円

(連結損益計算書関係)

1 一般管理費に含まれる研究開発費は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成27年3月1日 至 平成28年2月29日)	当連結会計年度 (自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)
	169,709千円	221,427千円

2 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成27年3月1日 至 平成28年2月29日)	当連結会計年度 (自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)
土地	1,267千円	- 千円

3 固定資産売却損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成27年3月1日 至 平成28年2月29日)	当連結会計年度 (自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)
建物及び構築物	1,911千円	328千円
その他(有形固定資産)	692	43
計	2,603	371

4 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成27年3月1日 至 平成28年2月29日)	当連結会計年度 (自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)
建物及び構築物	109,920千円	106,637千円
機械装置及び運搬具	8,059	4,456
その他(有形固定資産)	15,610	18,317
その他(無形固定資産)	1,392	12
計	134,982	129,424

5 減損損失

当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上いたしました。

前連結会計年度(自 平成27年3月1日 至 平成28年2月29日)

(1) 減損損失を認識した資産グループの概要

用途	種類	場所	減損損失 (千円)
店舗	建物及び 構築物等	浜勝ヨドバシAKIBA 店ほか8店舗	149,578
共用 資産	土地	長崎県西彼杵郡ほか 1か所	51,005

(2) 減損損失の認識に至った経緯

店舗については、営業活動から生じる損益が継続してマイナスであり、今後も収益改善の可能性が低いと判断した店舗及び当連結会計年度において退店の意思決定がなされた店舗について、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

共用資産については、事業の用に供していない遊休資産のうち時価が著しく下落した資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

(3) 減損損失の内訳

建物及び構築物	85,526千円
土地	51,005
その他(有形固定資産)	15,502
その他(無形固定資産)	48,549
計	200,584

(4) 資産のグルーピングの方法

キャッシュ・フローを生み出す最小単位として、店舗を基本単位とし、また遊休資産については個々の物件ごとにグルーピングしております。

(5) 回収可能価額の算定方法

賃借店舗の回収可能価額は使用価値により測定し、将来キャッシュ・フローがマイナスであるため、回収可能価額を零として評価しております。

当連結会計年度（自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日）

（1）減損損失を認識した資産グループの概要

用途	種類	場所	減損損失 (千円)
店舗	建物及び 構築物等	リンガーハット愛知 長久手店ほか42店舗	543,749

（2）減損損失の認識に至った経緯

店舗については、営業活動から生じる損益が継続してマイナスであり、今後も収益改善の可能性が低いと判断した店舗及び当連結会計年度において退店の意思決定がなされた店舗について、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

（3）減損損失の内訳

建物及び構築物	424,866千円
機械装置及び運搬具	41
その他	31,667
リース資産減損勘定	87,174
計	543,749

（4）資産のグルーピングの方法

キャッシュ・フローを生み出す最小単位として、店舗を基本単位とし、また遊休資産については個々の物件ごとにグルーピングしております。

（5）回収可能価額の算定方法

賃借店舗については使用価値により測定し、将来キャッシュ・フローを5.6%で割り引いて算定しております。

(連結包括利益計算書関係)

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成27年3月1日 至 平成28年2月29日)	当連結会計年度 (自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	155,528千円	34,574千円
組替調整額	-	201,123
税効果調整前	155,528	166,548
税効果額	11,023	75,798
その他有価証券評価差額金	144,505	90,749
為替換算調整勘定：		
当期発生額	25,248	13,401
組替調整額	-	-
税効果調整前	25,248	13,401
税効果額	-	-
為替換算調整勘定	25,248	13,401
退職給付に係る調整額：		
当期発生額	29,560	30,148
組替調整額	9,312	36,996
税効果調整前	38,873	6,848
税効果額	16,791	2,667
退職給付に係る調整額	22,081	4,180
持分法適用会社に対する持分相当額：		
当期発生額	120	942
組替調整額	-	-
持分法適用会社に対する持分相当額	120	942
その他の包括利益合計	141,218	109,274

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成27年3月1日 至平成28年2月29日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度 末株式数(株)
発行済株式				
普通株式	22,067,972	-	-	22,067,972
自己株式				
普通株式 (注)	100,580	602,846	1,243	702,183

(注) 1. 上記自己株式には、株式付与E S O P信託口として日本マスタートラスト信託銀行株式会社が当社との信託契約に基づき所有する当社株式89,657株を含めております。

2. 自己株式の株式数の増加602,846株のうち600,000株は自己株式の公開買付による増加であり、2,846株は単元未満株式の買取による増加であります。

3. 自己株式の株式数の減少1,243株のうち、1,208株は株式付与E S O P信託口による当社従業員への割当による減少であり、35株は単元未満株式の買増請求による売渡であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成27年5月27日 定時株主総会	普通株式	176,466	8.00	平成27年2月28日	平成27年5月28日
平成27年10月9日 取締役会	普通株式	198,511	9.00	平成27年8月31日	平成27年11月13日

(注) 1. 平成27年5月27日株主総会決議による配当金の総額には、株式付与E S O P信託口が所有する自社の株式に対する配当金726千円が含まれております。

2. 平成27年10月9日取締役会決議による配当金の総額には、株式付与E S O P信託口が所有する自社の株式に対する配当金814千円が含まれております。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成28年5月25日 定時株主総会	普通株式	171,643	利益剰余金	8.00	平成28年2月29日	平成28年5月26日

(注) 平成28年5月25日株主総会決議による配当金の総額には、株式付与E S O P信託口が所有する自社の株式に対する配当金717千円が含まれております。

当連結会計年度（自平成28年3月1日 至平成29年2月28日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期 首株式数（株）	当連結会計年度増 加株式数（株）	当連結会計年度減 少株式数（株）	当連結会計年度末 株式数（株）
発行済株式				
普通株式（注）1	22,067,972	4,000,000	-	26,067,972
自己株式				
普通株式（注）2、3、4	702,183	513,267	2,851	1,212,599

（注）1. 発行済株式の株式数の増加4,000,000株は、公募による新株の発行3,480,000株及び第三者割当による新株発行520,000株によるものであります。

2. 上記自己株式には、株式付与E S O P信託口として日本マスタートラスト信託銀行株式会社が当社との信託契約に基づき所有する当社株式86,806株を含めております。

3. 自己株式の株式数の増加513,267株のうち511,500株は取締役会決議による自己株式の取得に伴う増加であり、1,767株は単元未満株式の買取による増加であります。

4. 自己株式の株式数の減少2,851株は株式付与E S O P信託口による当社従業員への割当による減少であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （千円）	1株当たり 配当額（円）	基準日	効力発生日
平成28年5月25日 定時株主総会	普通株式	171,643	8.00	平成28年2月29日	平成28年5月26日
平成28年10月11日 取締役会	普通株式	188,492	9.00	平成28年8月31日	平成28年11月15日

（注）1. 平成28年5月25日株主総会決議による配当金の総額には、株式付与E S O P信託口が所有する自社の株式に対する配当717千円が含まれております。

2. 平成28年10月11日取締役会決議による配当金の総額には、株式付与E S O P信託口が所有する自社の株式に対する配当金795千円が含まれております。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （千円）	配当の原資	1株当たり 配当額（円）	基準日	効力発生日
平成29年5月24日 定時株主総会	普通株式	274,363	利益剰余金	11.0	平成29年2月28日	平成29年5月25日

（注）平成29年5月24日株主総会決議による配当金の総額には、株式付与E S O P信託口が所有する自社の株式に対する配当金954千円が含まれております。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 （自平成27年3月1日 至平成28年2月29日）	当連結会計年度 （自平成28年3月1日 至平成29年2月28日）
現金及び預金勘定	1,711,400千円	8,906,956千円
預入期間が3ヶ月を超える定期性預金	-	-
現金及び現金同等物	1,711,400	8,906,956

(リース取引関係)

(借主側)

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

有形固定資産

主として、工場における生産設備(機械装置及び運搬具)及び本社における管理設備(その他)であります。

無形固定資産

ソフトウェアであります。

リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計方針に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については安全性の高い預金等に限定し、銀行等金融機関からの借入及び社債の発行により資金を調達しております。デリバティブは、借入金の金利変動リスクを回避するために利用し、投機的な取引は行いません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である売掛金は顧客の信用リスクに晒されております。

投資有価証券は、業務上の関連を有する企業の株式であり、市場価格の変動及び発行会社の財務状態の悪化のリスクに晒されております。

差入保証金、建設協力金及び敷金は、主に店舗の賃貸借契約に係るものであり、賃貸人の信用リスクに晒されております。

営業債務である買掛金は、原則として翌月が支払期日です。

借入金のうち短期借入金の用途は運転資金であり、長期借入金及び社債の用途は設備投資資金であります。一部の長期借入金の金利変動リスクに対して金利スワップ取引を利用して、ヘッジしております。

デリバティブ取引は、借入金に係る支払金利の変動リスクに対するヘッジを目的とした金利スワップ取引であります。なお、長期借入金のヘッジの有効性の評価方法については、金利スワップの特例処理の要件を満たしているため、その判定をもって有効性の評価を省略しております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

売掛金に係る顧客の信用リスクは、売掛金管理規程に沿ってリスク低減をはかっております。

投資有価証券は、定期的に発行体の財務状況等の把握を行っております。

差入保証金、建設協力金及び敷金に関しては、店舗開発部が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングするとともに、早期回収を行うことにより財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減をはかっております。

デリバティブの利用にあたっては、信用リスクを軽減するために、格付の高い金融機関とのみ取引を行っております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注）2.参照）。

前連結会計年度（平成28年2月29日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	1,711,400	1,711,400	-
(2) 投資有価証券	1,568,176	1,568,176	-
資産計	3,279,577	3,279,577	-
(1) 短期借入金	2,290,000	2,290,000	-
(2) 長期借入金	3,721,829	3,728,561	6,732
負債計	6,011,829	6,018,561	6,732
デリバティブ取引	-	-	-

() 1年内返済予定の長期借入金は、長期借入金に含めて表示しております。

当連結会計年度（平成29年2月28日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	8,906,956	8,906,958	-
(2) 投資有価証券	575,837	575,837	-
資産計	9,482,794	9,482,794	-
(1) 短期借入金	2,100,000	2,100,000	-
(2) 長期借入金	3,313,880	3,311,077	2,802
負債計	5,413,880	5,411,077	2,802
デリバティブ取引	-	-	-

() 1年内返済予定の長期借入金は、長期借入金に含めて表示しております。

(表示方法の変更)

社債は、金額的重要性が乏しくなったため、当連結会計年度より記載を省略しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度についても記載を省略しております。なお、前連結会計年度の社債の連結貸借対照表計上額は1,488,000千円、時価は1,507,219千円であります。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、「有価証券関係」注記を参照ください。

負 債

(1) 短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額に近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2) 長期借入金

長期借入金の時価については、変動金利によるものは短期間で市場金利を反映し、当社の信用状態は実行後大きく異なっていないことから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額によっております。また、固定金利によるものは元利金の合計額を新規に同様の借入れを行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

なお、金利スワップの特例処理の対象となっている、変動金利による長期借入金については、当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計額を同様の借入を行った場合に適用される合理的に見積られる利率で割り引いて算出する方法によっております。

デリバティブ取引

金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	前連結会計年度 (平成28年2月29日)	当連結会計年度 (平成29年2月28日)
非上場株式(1)	64,983	64,983
関係会社株式(1)	86,093	236,251
敷金(2)	2,468,699	2,526,549

- (1) これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、資産(2)投資有価証券には含めておりません。
- (2) 敷金については、償還時期を合理的に見積もることができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、時価評価は行っておりません。

3. 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成28年2月29日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	1,537,750	-	-	-

当連結会計年度(平成29年2月28日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	8,689,408	-	-	-

4. 長期借入金及びその他有利子負債の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(平成28年2月29日)

	1年以内 (千円)	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	2,290,000	-	-	-	-	-
長期借入金	1,428,459	958,455	677,264	433,665	195,526	28,460

当連結会計年度(平成29年2月28日)

	1年以内 (千円)	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	2,100,000	-	-	-	-	-
長期借入金	1,197,775	916,584	672,985	434,846	91,690	-

(有価証券関係)

1. 売買目的有価証券
当社グループにおいては、該当事項はありません。
2. 満期保有目的の債券
当社グループにおいては、該当事項はありません。
3. その他有価証券
前連結会計年度(平成28年2月29日)

	種類	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	1,411,633	953,626	458,007
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	1,411,633	953,626	458,007
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	156,542	184,391	27,849
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	156,542	184,391	27,849
合計		1,568,176	1,138,018	430,158

当連結会計年度(平成29年2月28日)

	種類	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	543,024	273,514	269,509
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	543,024	273,514	269,509
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	32,812	38,712	5,900
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	32,812	38,712	5,900
合計		575,837	312,227	263,609

4. 売却したその他有価証券
前連結会計年度(平成28年2月29日)
該当事項はありません。

当連結会計年度(平成29年2月28日)

種類	売却額 (千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
(1) 株式	1,029,501	201,123	-
(2) 債券	-	-	-
(3) その他	-	-	-
合計	1,029,501	201,123	-

5. 売却した満期保有目的の債券

当社グループにおいては、該当事項はありません。

6. 保有目的を変更した有価証券

当社グループにおいては、該当事項はありません。

7. 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度及び当連結会計年度においては、該当事項はありません。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得価額よりも30%以上下落している場合に減損処理を行っております。

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引
該当事項はありません。
2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引
金利関連

前連結会計年度(平成28年2月29日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (千円)	契約額等のうち1年超 (千円)	時価 (千円)
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 変動受取・固定支払	長期借入金 (1年内含む)	527,650	328,090	(注)

(注)金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金(1年内返済予定の長期借入金含む)と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

当連結会計年度(平成29年2月28日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (千円)	契約額等のうち1年超 (千円)	時価 (千円)
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 変動受取・固定支払	長期借入金 (1年内含む)	328,090	188,530	(注)

(注)金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金(1年内返済予定の長期借入金含む)と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社グループは、退職金規定に基づく退職一時金制度、確定給付企業年金制度及び複数事業主制度の外食産業ジェフ厚生年金基金に加入しており、このうち、自社の拠出に対応する年金資産の額を合理的に計算する事ができない制度については、確定拠出と同様に会計処理しております。

なお、一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表(3)に掲げられた簡便法を適用した制度を除く)

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 平成27年3月1日 至 平成28年2月29日)	(自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)
退職給付債務の期首残高	1,210,776千円	1,260,915千円
会計方針の変更による累積的影響額	0	-
会計方針の変更を反映した期首残高	1,210,775	1,260,915
勤務費用	144,094	144,367
利息費用	15,575	14,975
数理計算上の差異の発生額	12,743	23,669
退職給付の支払額	96,785	85,920
その他	-	6,779
退職給付債務の期末残高	1,260,915	1,303,888

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表(3)に掲げられた簡便法を適用した制度を除く)

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 平成27年3月1日 至 平成28年2月29日)	(自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)
年金資産の期首残高	467,435千円	445,558千円
期待運用収益	14,023	13,366
数理計算上の差異の発生額	42,304	6,478
事業主からの拠出額	26,171	17,392
退職給付の支払額	19,766	21,781
年金資産の期末残高	445,558	461,015

(3) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 平成27年3月1日 至 平成28年2月29日)	(自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)
退職給付に係る負債の期首残高	63,694千円	58,342千円
退職給付費用	9,037	2,048
退職給付の支払額	12,809	12,800
制度への拠出額	1,580	924
その他	-	5,773
退職給付に係る負債の期末残高	58,342	52,439

(4) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(平成28年2月29日)	(平成29年2月28日)
積立型制度の退職給付債務	398,296千円	382,710千円
年金資産	466,403	461,015
差引額	68,106	78,305
非積立型制度の退職給付債務	941,804	973,618
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	873,698	895,313
退職給付に係る負債	935,972	973,618
退職給付に係る資産	62,273	78,305
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	873,698	895,313

(5) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自 平成27年3月1日 至 平成28年2月29日)	当連結会計年度 (自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)
勤務費用	144,094千円	144,367千円
利息費用	15,575	14,975
期待運用収益	14,023	13,366
数理計算上の差異の費用処理額	9,312	36,996
簡便法で計算した退職給付費用	9,037	2,048
合 計	145,371	111,027

(6) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年2月29日)	当連結会計年度 (平成29年2月28日)
未認識数理計算上の差異	38,873千円	6,848千円

(7) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年2月29日)	当連結会計年度 (平成29年2月28日)
未認識数理計算上の差異	50,655千円	43,806千円

(8) 年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年2月29日)	当連結会計年度 (平成29年2月28日)
株式	40%	42%
債券	20	21
一般勘定	37	34
その他	3	3
合 計	100	100

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(9) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎

	前連結会計年度 (平成28年2月29日)	当連結会計年度 (平成29年2月28日)
割引率	0.9%	0.9%
長期期待運用収益率	3.0%	3.0%

(注) 当社はポイント制を採用しており、退職給付債務の計算に予定昇給率は使用していません。

3. 複数事業主制度

確定拠出制度と同様に会計処理する、複数事業主制度の厚生年金基金制度への要拠出額は、前連結会計年度25,500千円、当連結会計年度26,455千円であります。

(1) 複数事業主制度の直近の積立状況

	前連結会計年度 (平成28年2月29日)	当連結会計年度 (平成29年2月28日)
年金資産の額	194,263,760千円	186,826,745千円
年金財政計算上の数理債務の額と 最低責任準備金の額との合計額	197,433,649	197,116,648
差引額	3,169,888	10,289,902

(2) 複数事業主制度の掛金に占める当社グループの割合

前連結会計年度 2.62% (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

当連結会計年度 2.71% (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

(3) 補足説明

上記(1)の差引額の主な要因は、年金財政計算上の未償却過去勤務債務残高（前連結会計年度113,430千円、当連結会計年度2,136,976千円）及び当年度不足金（前連結会計年度8,850,599千円、当連結会計年度10,135,807千円）であります。

(ストック・オプション等関係)
該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成28年2月29日)	当連結会計年度 (平成29年2月28日)
繰延税金資産(流動)		
未払事業税	40,754千円	63,808千円
株主優待引当金	22,107	25,405
税務上の繰越欠損金	35,296	35,184
その他	16,819	67,630
連結会社間内部利益消去	4,303	5,322
繰延税金資産(流動)小計	119,281	197,351
評価性引当額	-	-
繰延税金資産(流動)合計	119,281	197,351
繰延税金資産(流動)の純額	119,281	197,351
繰延税金資産(固定)		
退職給付に係る負債	309,006	292,294
減損損失	193,335	299,724
長期未払金	130,601	121,032
投資有価証券評価損	165,334	109,992
税務上の繰越欠損金	398,043	293,029
資産除去債務	363,117	358,827
その他	108,550	119,779
連結会社間内部利益消去	112,276	125,560
繰延税金資産(固定)小計	1,780,266	1,720,240
評価性引当額	958,742	800,743
繰延税金資産(固定)合計	821,524	919,497
繰延税金負債(固定)		
その他有価証券評価差額金	132,315	56,517
資産除去債務対応費用	132,260	134,777
その他	36,486	37,207
繰延税金負債(固定)合計	301,061	228,502
繰延税金資産(固定)の純額	520,462	690,995

(注) 前連結会計年度において、「繰延税金負債(固定)」の「その他」に含めて表示しておりました「資産除去債務対応費用」は金額的重要性が増したため、当連結会計年度より区分掲記しております。この変更を反映させるため前連結会計年度の繰延税金負債(固定)の発生の主な原因別の内訳の組替えを行っております。

(注) 前連結会計年度及び当連結会計年度における繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (平成28年2月29日)	当連結会計年度 (平成29年2月28日)
流動資産 - 繰延税金資産	119,281千円	197,351千円
流動負債 - 繰延税金負債	-	-
固定資産 - 繰延税金資産	520,462	690,995
固定負債 - 繰延税金負債	-	-

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成28年2月29日)	当連結会計年度 (平成29年2月28日)
法定実効税率	35.3%	32.8%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.5	1.4
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.1	0.1
持分法による投資損失	0.1	0.3
住民税均等割	3.2	3.1
過年度法人税等	1.1	0.5
評価性引当額の増減	5.4	0.3
その他	0.8	1.6
税効果会計適用後の法人税等の負担率	47.1	38.9

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」及び「地方税法等の一部を改正する等の法律」が平成28年3月29日に、また、「社会保障の安定財源の確保等を図る税制の抜本的な改革を行うための消費税法の一部を改正する等の法律等の一部を改正する法律」及び「社会保障の安定財源の確保等を図る税制の抜本的な改革を行うための地方税法及び地方交付税法の一部を改正する法律等の一部を改正する法律」が平成28年11月18日に国会で成立し、平成28年4月1日以降に開始する連結会計年度から法人税率等の引き下げが行われることになりました。

これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は、従来の32.06%から平成29年3月1日及び平成30年3月1日に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異については30.69%、平成31年3月1日に開始する連結会計年度以降に解消が見込まれる一時差異については30.46%となります。この税率変更による損益に与える影響は軽微であります。

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

(1) 当該資産除去債務の概要

店舗及び本社の建物の賃貸借契約に伴う原状回復義務であります。

(2) 当該資産除去債務の金額の算定方法

物件ごとに使用見込期間(主に20年)を見積り、対応する国債の利回り(主に1.991%)で割り引いて、資産除去債務の額を計算しております。

(3) 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自平成27年3月1日 至平成28年2月29日)	当連結会計年度 (自平成28年3月1日 至平成29年2月28日)
期首残高	1,068,761千円	1,131,770千円
有形固定資産の取得に伴う増加額	82,893	94,273
時の経過による調整額	14,567	14,505
見積りの変更による増加額	6,923	-
資産除去債務の履行による減少額	41,375	17,777
期末残高	1,131,770	1,222,772

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、グループ全体を統括する持株会社の下で、事業運営会社が事業領域別に戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社グループは、事業領域別のセグメントから構成されており、「長崎ちゃんぼん事業」、「とんかつ事業」及び「設備メンテナンス事業」の3つを報告セグメントとしております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成27年3月1日 至 平成28年2月29日)

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	連結財務諸表 計上額 (注)2
	長崎 ちゃんぼん	とんかつ	設備 メンテナンス	合計		
売上高						
(1)外部顧客に対する売上高	30,639,644	10,305,830	183,953	41,129,427	-	41,129,427
(2)セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	1,509,208	1,509,208	1,509,208	-
計	30,639,644	10,305,830	1,693,161	42,638,636	1,509,208	41,129,427
セグメント利益又は損失()	1,921,364	790,811	136,713	2,848,889	14,531	2,834,358
セグメント資産	17,030,567	3,937,613	762,533	21,730,714	4,097,770	25,828,485
その他の項目						
減価償却費	1,052,848	192,796	7,669	1,253,314	66,576	1,319,891
のれん償却額	18,556	868	-	19,425	-	19,425
減損損失	118,015	48,020	25,357	191,393	9,191	200,584
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	1,719,556	555,725	458	2,275,740	215,650	2,491,390

(注)1. 調整額は以下のとおりであります。

(1)セグメント利益又はセグメント損失()の調整額 14,531千円はセグメント間の取引消去であります。

(2)セグメント資産の調整額4,097,770千円は、主に親会社での運用資金(現金及び投資有価証券)、管理部門に係る資産及びセグメント間の取引消去等であります。

(3)減損損失の「調整額」の金額は、遊休資産の時価の下落に係る金額であります。

2. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 売上高にはその他の営業収入を含めております。

当連結会計年度（自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日）

（単位：千円）

	報告セグメント				調整額 (注) 1	連結財務諸表 計上額 (注) 2
	長崎 ちゃんぽん	とんかつ	設備 メンテナンス	合計		
売上高						
(1)外部顧客に対する売上高	33,145,749	10,459,433	239,551	43,844,733	-	43,844,733
(2)セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	1,526,939	1,526,939	1,526,939	-
計	33,145,749	10,459,433	1,766,491	45,371,673	1,526,939	43,844,733
セグメント利益又は損失()	2,658,021	516,820	159,790	3,334,632	50,540	3,284,092
セグメント資産	18,155,666	3,998,807	824,363	22,978,837	10,213,933	33,192,770
その他の項目						
減価償却費	1,216,783	194,501	4,918	1,416,202	29,034	1,445,236
のれん償却額	2,330	838	-	3,168	-	3,168
減損損失	289,793	259,270	-	549,063	5,314	543,749
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	1,729,916	429,279	464	2,159,659	178,689	2,338,349

(注) 1 . 調整額は以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益又はセグメント損失()の調整額 50,540千円はセグメント間の取引消去30,521千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 81,061千円が含まれております。
- (2) セグメント資産の調整額10,213,933千円は、主に親会社での運用資金(現金及び投資有価証券)、管理部門に係る資産及びセグメント間の取引消去等であります。
- 2 . セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
- 3 . 売上高にはその他の営業収入を含めております。

【関連情報】

前連結会計年度（自平成27年3月1日 至平成28年2月29日）

1．製品及びサービスごとの情報

セグメント情報として、同様の情報が開示されているため、記載を省略しております。

2．地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3．主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

当連結会計年度（自平成28年3月1日 至平成29年2月28日）

1．製品及びサービスごとの情報

セグメント情報として、同様の情報が開示されているため、記載を省略しております。

2．地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3．主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自平成27年3月1日 至平成28年2月29日）

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

当連結会計年度（自平成28年3月1日 至平成29年2月28日）

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自平成27年3月1日 至平成28年2月29日）

（単位：千円）

	長崎 ちゃんぽん	とんかつ	設備 メンテナンス	全社・消去	合計
当期末残高	14,082	3,256	-	-	17,338

（注）のれんの償却額に関しては、セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

当連結会計年度（自平成28年3月1日 至平成29年2月28日）

（単位：千円）

	長崎 ちゃんぽん	とんかつ	設備 メンテナンス	全社・消去	合計
当期末残高	11,066	2,306	-	-	13,372

（注）のれんの償却額に関しては、セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自平成27年3月1日 至平成28年2月29日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自平成28年3月1日 至平成29年2月28日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1. 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等
前連結会計年度（自 平成27年3月1日 至 平成28年2月29日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金（千円）	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合（％）	関係内容	取引の内容	取引金額（千円）	科目	期末残高（千円）
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有する会社	ヨネハマホールディングス有限公司	福岡市南区	12,000	資産管理	-	役員の兼任、公開買付による自己株式の取得	自己株式の取得	1,447,200	-	-

取引条件ないし取引条件の決定方針等

(注) 1. 取引金額には、消費税等は含まれておりません。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針

自己株式の取得につきましては平成27年8月20日開催の取締役会決議に基づき、公開買付の方法により買付価格を普通株式1株につき、2,412円で行っております。

当連結会計年度（自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日）

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

前連結会計年度 (自 平成27年 3月 1日 至 平成28年 2月29日)		当連結会計年度 (自 平成28年 3月 1日 至 平成29年 2月28日)	
1株当たり純資産額	522.79円	1株当たり純資産額	764.63円
1株当たり当期純利益金額	58.53円	1株当たり当期純利益金額	73.26円
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。		なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。	

(注) 1. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成27年 3月 1日 至 平成28年 2月29日)	当連結会計年度 (自 平成28年 3月 1日 至 平成29年 2月28日)
1株当たり当期純利益金額		
親会社株主に帰属する当期純利益 (千円)	1,271,838	1,620,331
普通株主に帰属しない金額 (千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益(千円)	1,271,838	1,620,331
期中平均株式数(株)	21,730,504	22,117,311

2. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度末 平成28年 2月29日	当連結会計年度末 平成29年 2月28日
純資産の部の合計額(千円)	11,169,845	19,005,402
純資産の部の合計額から控除する金額 (千円)	-	-
普通株式に係る期末の純資産額 (千円)	11,169,845	19,005,402
1株当たり純資産額の算定に用いられた 期末の普通株式の数(株)	21,365,789	24,855,373

3. 株式付与E S O P信託口が所有する当社株式を、「1株当たり純資産」の算定上、期末発行済株式総数から控除する自己株式に含めております(前連結会計年度 89千株、当連結会計年度 86千株)。

また、「1株当たり当期純利益」の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております(前連結会計年度 90千株、当連結会計年度 88千株)。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	利率(%)	担保	償還期限
(株)リンガーハット	第5回無担保社債 (注)1.2	平成年月日 24.3.30	60,000 (40,000)	20,000 (20,000)	0.68	なし	平成年月日 29.3.31
(株)リンガーハット	第6回無担保社債 (注)1.2	27.3.31	928,000 (144,000)	784,000 (144,000)	0.47	なし	34.3.31
(株)リンガーハット	第7回無担保社債 (注)1.2	27.9.30	500,000 (72,000)	428,000 (72,000)	0.46	なし	34.9.30
合計	-	-	1,488,000 (256,000)	1,232,000 (236,000)	-	-	-

(注)1.()内書は、1年以内の償還予定額であります。

2. 連結決算日後5年間の償還予定額は以下のとおりであります。

1年以内 (千円)	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
236,000	216,000	216,000	216,000	216,000

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	2,290,000	2,100,000	0.379	-
1年以内に返済予定の長期借入金	1,428,459	1,197,775	0.911	-
1年以内に返済予定のリース債務	105,956	126,931	1.047	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	2,293,370	2,116,105	0.924	平成30年3月1日～ 平成33年5月31日
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	305,229	296,879	1.042	平成30年3月1日～ 平成35年10月31日
計	6,423,014	5,837,691	-	-

(注) 1. 平均利率については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年内における返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	916,584	672,985	434,846	91,690
リース債務	111,319	81,588	59,574	27,794

【資産除去債務明細表】

本明細表に記載すべき事項が連結財務諸表規則第15条の23に規定する注記事項として記載されているため、資産除去債務明細表の記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(千円)	10,339,946	21,361,611	32,423,954	43,844,733
税金等調整前四半期(当期) 純利益金額(千円)	527,667	1,415,449	2,251,822	2,652,711
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益金額(千円)	236,421	894,151	1,462,980	1,620,331
1株当たり四半期(当期)純 利益金額(円)	11.07	42.04	68.81	73.26

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額 (円)	11.07	31.06	26.78	6.36

2【財務諸表等】

(1)【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年2月29日)	当事業年度 (平成29年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,175,547	8,037,063
売掛金	1,432,579	1,505,115
商品及び製品	65,535	61,647
原材料及び貯蔵品	141,778	140,027
前払費用	162,621	117,225
未収入金	1,15,771	1,40,552
繰延税金資産	38,593	114,978
その他	1,170,552	1,163,850
流動資産合計	2,202,980	9,180,461
固定資産		
有形固定資産		
建物	8,199,037	8,761,649
構築物	424,868	440,375
機械及び装置	768,992	765,343
車両運搬具	17,551	11,292
工具、器具及び備品	148,877	111,532
土地	4,842,241	4,858,241
リース資産	182,638	188,588
建設仮勘定	116,856	76,420
有形固定資産合計	14,701,063	15,213,443
無形固定資産		
ソフトウェア	30,932	26,500
リース資産	220,510	228,857
その他	117,078	121,772
無形固定資産合計	368,521	377,130
投資その他の資産		
投資有価証券	1,633,159	640,819
関係会社株式	605,652	943,271
長期貸付金	1,372,836	1,443,854
繰延税金資産	131,632	308,974
差入保証金	1,037,565	1,073,650
建設協力金	84,898	123,215
敷金	2,464,921	1,2,522,862
前払年金費用	27,986	28,790
その他	1,292,817	244,067
貸倒引当金	354,961	378,978
投資その他の資産合計	6,296,510	5,950,527
固定資産合計	21,366,095	21,541,101
資産合計	23,569,075	30,721,562

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年2月29日)	当事業年度 (平成29年2月28日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,731,407	1,753,655
1年内償還予定の社債	256,000	236,000
短期借入金	2,290,000	2,100,000
1年内返済予定の長期借入金	1,428,459	1,197,775
リース債務	105,121	126,931
未払金	1,799,505	1,739,406
未払費用	101,894	94,808
未払法人税等	147,029	286,621
預り金	1,229,911	1,202,090
株主優待引当金	67,338	82,780
店舗閉鎖損失引当金	-	15,667
資産除去債務	2,002	49,813
その他	58,678	177,068
流動負債合計	8,280,349	7,882,620
固定負債		
社債	1,232,000	996,000
長期借入金	2,293,370	2,116,105
長期未払金	428,715	428,041
リース債務	305,229	296,879
株式給付引当金	17,691	29,541
退職給付引当金	428,746	449,809
長期預り保証金	390,870	387,470
資産除去債務	1,122,031	1,165,198
その他	23,982	97,859
固定負債合計	6,242,637	5,966,905
負債合計	14,522,987	13,849,525
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,066,122	9,002,762
資本剰余金		
資本準備金	2,079,391	6,016,031
その他資本剰余金	2,407,551	2,407,551
資本剰余金合計	4,486,942	8,423,582
利益剰余金		
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金	-	5,310
繰越利益剰余金	816,941	2,043,695
利益剰余金合計	816,941	2,049,005
自己株式	1,621,762	2,810,407
株主資本合計	8,748,244	16,664,944
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	297,843	207,093
評価・換算差額等合計	297,843	207,093
純資産合計	9,046,088	16,872,037
負債純資産合計	23,569,075	30,721,562

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成27年3月1日 至 平成28年2月29日)	当事業年度 (自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)
売上高	1 15,129,345	1 16,174,329
売上原価	13,133,894	14,113,261
売上総利益	1,995,451	2,061,068
その他の営業収入	1 3,850,426	1 3,930,426
営業総利益	5,845,877	5,991,494
販売費及び一般管理費	1, 2 4,367,581	1, 2 4,342,668
営業利益	1,478,296	1,648,825
営業外収益		
受取利息	1 9,828	1 7,129
受取配当金	1 197,118	1 995,377
為替差益	-	228
その他	13,587	7,828
営業外収益合計	220,534	1,010,564
営業外費用		
支払利息	61,630	53,520
社債利息	6,408	6,200
株式交付費	-	43,684
社債発行費	33,858	-
為替差損	46,788	-
その他	28,683	35,909
営業外費用合計	177,368	139,315
経常利益	1,521,461	2,520,075
特別利益		
投資有価証券売却益	-	201,123
収用補償金	4,433	21,166
受取補償金	40,000	-
その他	-	6,373
特別利益合計	44,433	228,663
特別損失		
固定資産売却損	2,603	371
固定資産除却損	119,866	114,013
店舗閉鎖損失引当金繰入額	8,407	33,498
災害による損失	-	8,474
減損損失	114,222	522,044
関係会社株式評価損	254,476	71,245
関係会社貸倒引当金繰入額	110,807	24,017
特別損失合計	610,383	773,665
税引前当期純利益	955,511	1,975,072
法人税、住民税及び事業税	344,224	560,801
法人税等調整額	113,217	177,929
法人税等合計	457,442	382,872
当期純利益	498,068	1,592,200

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 平成27年3月1日 至 平成28年2月29日）

（単位：千円）

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		自己株式	株主資本合計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計		
当期首残高	5,066,122	2,079,391	2,407,551	4,486,942	695,352	695,352	169,873	10,078,544
会計方針の変更による累積的影響額					1,501	1,501		1,501
会計方針の変更を反映した当期首残高	5,066,122	2,079,391	2,407,551	4,486,942	693,850	693,850	169,873	10,077,042
当期変動額								
剰余金の配当					374,977	374,977		374,977
当期純利益					498,068	498,068		498,068
自己株式の取得							1,453,960	1,453,960
自己株式の処分							2,071	2,071
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）								
当期変動額合計	-	-	-	-	123,091	123,091	1,451,889	1,328,797
当期末残高	5,066,122	2,079,391	2,407,551	4,486,942	816,941	816,941	1,621,762	8,748,244

	評価・換算差額等	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	
当期首残高	442,348	10,520,893
会計方針の変更による累積的影響額		1,501
会計方針の変更を反映した当期首残高	442,348	10,519,391
当期変動額		
剰余金の配当		374,977
当期純利益		498,068
自己株式の取得		1,453,960
自己株式の処分		2,071
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	144,505	144,505
当期変動額合計	144,505	1,473,302
当期末残高	297,843	9,046,088

当事業年度（自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日）

(単位：千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		利益剰余金 合計
		資本準備金	その他資本 剰余金	資本剰余金 合計	その他利益剰余金		
					固定資産圧 縮積立金	繰越利益剰 余金	
当期首残高	5,066,122	2,079,391	2,407,551	4,486,942	-	816,941	816,941
会計方針の変更による累積的影響額							-
会計方針の変更を反映した当期首残高	5,066,122	2,079,391	2,407,551	4,486,942	-	816,941	816,941
当期変動額							
新株の発行	3,936,640	3,936,640		3,936,640			
剰余金の配当						360,135	360,135
固定資産圧縮積立金の積立					5,310	5,310	-
当期純利益						1,592,200	1,592,200
自己株式の取得							
自己株式の処分							
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）							
当期変動額合計	3,936,640	3,936,640	-	3,936,640	5,310	1,226,754	1,232,064
当期末残高	9,002,762	6,016,031	2,407,551	8,423,582	5,310	2,043,695	2,049,005

	株主資本		評価・換算 差額等	純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価 証券評価差 額金	
当期首残高	1,621,762	8,748,244	297,843	9,046,088
会計方針の変更による累積的影響額		-		-
会計方針の変更を反映した当期首残高	1,621,762	8,748,244	297,843	9,046,088
当期変動額				
新株の発行		7,873,280		7,873,280
剰余金の配当		360,135		360,135
固定資産圧縮積立金の積立		-		-
当期純利益		1,592,200		1,592,200
自己株式の取得	1,193,333	1,193,333		1,193,333
自己株式の処分	4,688	4,688		4,688
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			90,749	90,749
当期変動額合計	1,188,645	7,916,699	90,749	7,825,949
当期末残高	2,810,407	16,664,944	207,093	16,872,037

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券

子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法に基づく原価法

(2) たな卸資産

商品及び製品

月別移動平均法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)

原材料及び貯蔵品

(イ) 原材料

月別移動平均法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)

(ロ) 貯蔵品

最終仕入原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)

(3) デリバティブ

時価法

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、平成11年3月1日以降取得した取得価額10万円以上20万円未満の資産については、3年間で均等償却する方法を採用しております。

また、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 10 ~ 31年

構築物 10 ~ 20年

機械及び装置 10年

車輛運搬具 2 ~ 6年

工具、器具及び備品 4 ~ 6年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

また、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

(3) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率法により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 株主優待引当金

株主優待券の利用による費用負担に備えるため、株主優待券の利用実績率に基づき、当事業年度末において将来利用されると見込まれる額を計上しております。

(3) 店舗閉鎖損失引当金

店舗等の閉鎖に伴い発生する損失に備えるため、違約金等の閉鎖関連損失見込額を計上しております。

(4) 株式給付引当金

株式付与規程に基づく従業員の当社株式の給付に備えるため、給付見込額のうち当事業年度に負担すべき額を計上しております。

(5) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき当事業年度末に発生していると認められる額を計上しております。

1 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

2 数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（3年）による定額法により按分した額を翌事業年度より損益処理することとしております。

未認識数理計算上の差異の貸借対照表における取扱いが連結貸借対照表と異なっております。

4. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) ヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

金利スワップについては、特例処理の要件を満たしているため、特例処理を採用しております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段.....金利スワップ

ヘッジ対象.....借入金

ヘッジ方針

借入金の金利変動リスクを回避する目的で金利スワップ取引を行っております。

ヘッジの有効性評価の方法

特例処理によっている金利スワップについては、有効性の評価を省略しております。

(2) 消費税等の会計処理

税抜方式を採用しております。

(会計方針の変更)

(企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)等を当事業年度から適用し、取得関連費用を発生した事業年度の費用として計上する方法に変更しております。また、当事業年度の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する事業年度の財務諸表に反映させる方法に変更しております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)及び事業分離等会計基準57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、当事業年度の期首時点から将来にわたって適用しております。これによる財務諸表に与える影響はありません。

(表示方法の変更)

(貸借対照表)

前事業年度において、「投資その他の資産」の「その他」に含めて表示しておりました「前払年金費用」は表示の明瞭性を高めるため、当事業年度より区分掲記しております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「投資その他の資産」の「その他」に表示しておりました320,804千円は、「前払年金費用」27,986千円、「その他」292,817千円として組み替えております。

(追加情報)

従業員に信託を通じて自社の株式を交付する取引については、連結財務諸表「注記事項(追加情報)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

(貸借対照表関係)

1. 関係会社に係る金銭債権・債務

各科目に含まれている関係会社に対する債権債務は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成28年2月29日)	当事業年度 (平成29年2月28日)
短期金銭債権	8,723千円	72,228千円
長期金銭債権	371,621	444,592
短期金銭債務	2,246,904	1,980,147
長期金銭債務	2,139	-

2 偶発債務

当社は、在外子会社Ringer Hut(Thailand)Co.,Ltd.への出資に関して、MHC B Consulting(Thailand) Co.,Ltd.の出資額(1,920千円)について保証を行っております。保証契約に係る出資額の円換算額は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成28年2月29日)	当事業年度 (平成29年2月28日)
MHC B Consulting(Thailand)Co.,Ltd.	6,105千円	6,201千円

(損益計算書関係)

1. 関係会社との営業取引による取引高の総額及び営業外取引以外の取引による取引高の総額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成27年3月1日 至 平成28年2月29日)	当事業年度 (自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)
営業取引による取引高の総額	13,783,245千円	15,115,392千円
営業取引以外の取引高の総額	184,343	982,081
計	13,967,589	16,097,474

2. 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度10%、当事業年度8%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度90%、当事業年度92%であります。販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成27年3月1日 至 平成28年2月29日)	当事業年度 (自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)
従業員給料	839,087千円	758,596千円
賃借料	410,247	332,109
減価償却費	843,985	921,464

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式(当事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式748,005千円、関連会社株式195,265千円、前事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式512,675千円、関連会社株式92,977千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成28年2月29日)	当事業年度 (平成29年2月28日)
繰延税金資産(流動)		
未払事業税	11,047千円	37,751千円
株主優待引当金	22,107	25,405
資産除去債務	657	15,287
その他	4,782	36,534
繰延税金資産(流動)合計	38,593	114,978
繰延税金資産(流動)の純額	38,593	114,978
繰延税金資産(固定)		
退職給付引当金	128,845	128,339
減損損失	192,997	295,422
長期未払金	130,601	121,032
投資有価証券評価損	165,334	109,992
関係会社株式評価損	226,900	237,277
資産除去債務	359,739	355,208
その他	201,618	204,861
繰延税金資産(固定)小計	1,406,037	1,452,134
評価性引当額	973,342	914,657
繰延税金資産(固定)合計	432,694	537,477
繰延税金負債(固定)		
その他有価証券評価差額金	132,315	56,517
資産除去債務対応費用	132,260	134,777
その他	36,486	37,207
繰延税金負債(固定)合計	301,061	228,502
繰延税金資産(固定)の純額	131,632	308,974

(注) 前事業年度において、「繰延税金負債(固定)」の「その他」に含めて表示しておりました「資産除去債務対応費用」は金額的重要性が増したため、当事業年度より区分掲記しております。この変更を反映させるため前事業年度の繰延税金負債(固定)の発生の主な原因別の内訳の組替えを行っております。

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成28年2月29日)	当事業年度 (平成29年2月28日)
法定実効税率	35.3%	32.8%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	3.6	1.9
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	6.8	16.3
住民税均等割	1.5	0.7
過年度法人税等	2.9	0.1
寄付金等否認	3.3	0.5
税率変更による影響	3.0	1.4
評価性引当額の増減	2.0	3.0
その他	3.0	1.5
税効果会計適用後の法人税等の負担率	47.8	19.4

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」及び「地方税法等の一部を改正する等の法律」が平成28年3月29日に、また、「社会保障の安定財源の確保等を図る税制の抜本的な改革を行うための消費税法の一部を改正する等の法律等の一部を改正する法律」及び「社会保障の安定財源の確保等を図る税制の抜本的な改革を行うための地方税法及び地方交付税法の一部を改正する法律等の一部を改正する法律」が平成28年11月18日に国会で成立し、平成28年4月1日以降に開始する事業年度から法人税率等の引き下げが行われることになりました。

これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は、従来の32.06%から平成29年3月1日及び平成30年3月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については30.69%、平成31年3月1日に開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異については30.46%となります。この税率変更による損益に与える影響は軽微であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	期首 帳簿価額 (千円)	当期 増加額 (千円)	当期 減少額 (千円)	当期 償却額 (千円)	期末 帳簿価額 (千円)	減価償却 累計額 (千円)	期末 取得価額 (千円)
有形固定資産							
建物	8,199,037	1,938,793	545,737 (415,726)	830,443	8,761,649	11,902,906	20,664,555
構築物	424,868	106,452	26,750 (13,973)	64,195	440,375	2,026,331	2,466,706
機械及び装置	768,992	130,550	4,503	129,696	765,343	1,315,329	2,080,673
車両運搬具	17,551	466	50	6,675	11,292	32,944	44,237
工具、器具及び備品	148,877	36,367	13,506 (4,872)	60,205	111,532	686,480	798,013
土地	4,842,241	16,000			4,858,241		4,858,241
リース資産	182,638	86,827		80,876	188,588	311,630	500,219
建設仮勘定	116,856	3,108,316	3,148,753		76,420		76,420
有形固定資産計	14,701,063	5,423,774	3,739,300 (434,573)	1,172,093	15,213,443	16,275,623	31,489,066
無形固定資産							
ソフトウェア	30,932	10,153		14,585	26,500		
リース資産	220,510	52,326		43,979	228,857		
その他	117,078	8,650	308	3,647	121,772		
無形固定資産計	368,521	71,130	308	62,212	377,130		

(注) 1. 当期増減額のうち主なものは次のとおりであります。

建物	増加		
		新規出店44店舗の新築工事	1,072,794千円
		24店舗の改造改装工事	402,051千円
		工場投資	168,839千円

2. 当期減少額の欄の()内の金額は内書で、減損損失を計上したことによるものであります。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	354,961	24,017	-	378,978
株主優待引当金	67,338	103,594	88,152	82,780
店舗閉鎖損失引当金	-	33,498	17,831	15,667
株式給付引当金	17,691	13,537	1,687	29,541

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	3月1日から2月末日まで																													
定時株主総会	5月中																													
基準日	2月末日																													
剰余金の配当の基準日	8月31日 2月末日																													
1単元の株式数	100株																													
単元未満株式の買取り・売渡し																														
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部																													
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社																													
取次所																														
買取・売渡手数料	無料																													
公告掲載方法	<p>当社の公告方法は、電子公告としております。ただし、電子公告を行うことができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載しております。</p> <p>当社の公告掲載URLは次のとおりであります。</p> <p>http://www.ringerhut.co.jp/</p>																													
株主に対する特典	<p>1．毎年8月31日及び2月末日現在の株主に、所有株式数に応じて以下のとおり食事ご優待券を送付します。</p> <table border="0"> <tr> <td>100株以上300株未満</td> <td>食事ご優待券2枚(額面1,080円)</td> </tr> <tr> <td>300株以上500株未満</td> <td>食事ご優待券7枚(額面3,780円)</td> </tr> <tr> <td>500株以上1,000株未満</td> <td>食事ご優待券12枚(額面6,480円)</td> </tr> <tr> <td>1,000株以上2,000株未満</td> <td>食事ご優待券25枚(額面13,500円)</td> </tr> <tr> <td>2,000株以上</td> <td>食事ご優待券50枚(額面27,000円)</td> </tr> </table> <p>2．長期保有優遇優待制度</p> <p>上記の優待に加算して、毎年2月末基準日の年1回に限り、保有期間に応じた下記の長期保有優遇を実施します。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>保有株式数</th> <th>継続保有</th> <th>加算枚数</th> <th>優待額</th> <th>贈呈回数</th> <th>基準日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100株～999株</td> <td rowspan="2">基準日時点で3年以上</td> <td>+ 2枚</td> <td>+ 1,080円</td> <td rowspan="2">年1回</td> <td rowspan="2">毎年2月末現在の株主名簿に記載されている株主</td> </tr> <tr> <td>1,000株以上</td> <td>+ 4枚</td> <td>+ 2,160円</td> </tr> </tbody> </table>					100株以上300株未満	食事ご優待券2枚(額面1,080円)	300株以上500株未満	食事ご優待券7枚(額面3,780円)	500株以上1,000株未満	食事ご優待券12枚(額面6,480円)	1,000株以上2,000株未満	食事ご優待券25枚(額面13,500円)	2,000株以上	食事ご優待券50枚(額面27,000円)	保有株式数	継続保有	加算枚数	優待額	贈呈回数	基準日	100株～999株	基準日時点で3年以上	+ 2枚	+ 1,080円	年1回	毎年2月末現在の株主名簿に記載されている株主	1,000株以上	+ 4枚	+ 2,160円
	100株以上300株未満	食事ご優待券2枚(額面1,080円)																												
	300株以上500株未満	食事ご優待券7枚(額面3,780円)																												
	500株以上1,000株未満	食事ご優待券12枚(額面6,480円)																												
1,000株以上2,000株未満	食事ご優待券25枚(額面13,500円)																													
2,000株以上	食事ご優待券50枚(額面27,000円)																													
保有株式数	継続保有	加算枚数	優待額	贈呈回数	基準日																									
100株～999株	基準日時点で3年以上	+ 2枚	+ 1,080円	年1回	毎年2月末現在の株主名簿に記載されている株主																									
1,000株以上		+ 4枚	+ 2,160円																											
<p>3．継続保有期間条件について</p> <p>(1) 年1回毎年2月末を基準日とし、同日付の当社株主名簿の記録により確認できる株主を対象とします。</p> <p>(2) 継続保有判定は、半期ごと(毎年2月末および8月末)の当社株主名簿に、「同一の株主番号」で連続して7回以上記録された株主様を、継続保有「3年以上」の対象とします。</p> <p>(3) 証券会社の貸株サービスを利用されている場合や、一旦所有当社株式の全部を売却した後に、2月または8月の権利付き最終確定日までに株式を買い戻した場合等、同一の株主番号記録の連続性が中断された場合には、継続要件を満たさないものとして取り扱います。</p>																														

(注) 当社の株主は、その有する単元未満株式について次の権利以外の権利を行使することができません。

- 1．会社法第189条第2項各号に掲げる権利

- 2．会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
- 3．株主の有する株式数に応じて募集株式及び募集新株予約権の割当てを受ける権利
- 4．单元未満株式の売渡しを請求する権利

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

- (1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書
事業年度（第52期）（自 平成27年3月1日 至 平成28年2月29日）平成28年5月25日関東財務局長に提出
- (2) 内部統制報告書及びその添付書類
平成28年5月25日関東財務局長に提出
- (3) 有価証券報告書の訂正報告書及び確認書
平成28年11月4日関東財務局長に提出
- (4) 四半期報告書及び確認書
（第53期第1四半期）（自 平成28年3月1日 至 平成28年5月31日）平成28年7月14日関東財務局長に提出
（第53期第2四半期）（自 平成28年6月1日 至 平成28年8月31日）平成28年10月14日関東財務局長に提出
（第53期第3四半期）（自 平成28年9月1日 至 平成28年11月30日）平成29年1月13日関東財務局長に提出
- (5) 臨時報告書
平成28年5月30日関東財務局長に提出
企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。
- (6) 有価証券届出書（参照方式、公募増資）及びその添付書類
平成28年11月4日関東財務局長に提出
- (7) 有価証券届出書（第三者割当増資）及びその添付書類
平成28年11月4日関東財務局長に提出
- (8) 有価証券届出書（参照方式、公募増資）の訂正届出書
平成28年11月14日関東財務局長に提出
- (9) 有価証券届出書（第三者割当増資）の訂正届出書
平成28年11月14日関東財務局長に提出
- (10) 自己株券買付状況報告書
平成28年8月5日関東財務局長に提出
- (11) 自己株券買付状況報告書の訂正報告書
平成28年10月7日関東財務局長に提出

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成29年5月23日

株式会社 リンガーハット

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 森 行一 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 矢野 真紀 印

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社リンガーハットの平成28年3月1日から平成29年2月28日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社リンガーハット及び連結子会社の平成29年2月28日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社リンガーハットの平成29年2月28日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、株式会社リンガーハットが平成29年2月28日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が連結財務諸表に添付する形で別途保管しております。

2. X B R L データは監査の対象には含まれておりません。

独立監査人の監査報告書

平成29年5月23日

株式会社 リンガーハット

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 森 行一 印
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 矢野 真紀 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社リンガーハットの平成28年3月1日から平成29年2月28日までの第53期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社リンガーハットの平成29年2月28日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が財務諸表に添付する形で別途保管しております。

2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。